

緑陰随筆

夏季特集号

山口県医師会報

No 1720

発行所 山口県医師会
〒 753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
TEL 083-922-2510
編集発行人 藤原 淳
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円（会員は会費に含め徴収）
昭和 31 年 3 月 15 日 第 3 種郵便物認可
（毎月 3 回 1 の日発行）



ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

表紙絵に寄せて

吉 南

柳 澤 慧

Painting



山口県医師会報の夏季特集号「緑陰随筆」の表紙絵を依頼された。油絵なので「では、描きましょう」という訳にもいかず、少々旧いが診療所の待合室に掛けてある二枚の油絵を思い出した。電話口での即断である。

その理由は蔵書票（書票）にある。私が蔵書票に興味を持ったのは十年以上前に購入した解剖学原書、Grant's Atlas of Anatomy(1991)のおもて表紙の見返しに、イルカの図案と“EX LIBRIS”と記したはがき大のものを見たのが動因となった。

爾来、エクスリブリス（蔵書票）に興味を抱き、自分でも作ることにした。木版や銅版が蔵書票の主流のようであるが、ふと思い出したのが、納戸の片隅で埃を被っていたプリントゴッコ（孔版の一種）である。しかし、これも材料の買い足しが面倒臭く、取り敢えずデジカメとパソコンでやってみることにした。この時に利用したものが件の油絵である。「紙の宝石」と言われるように、蔵書票には底知れぬ魅力がある。

このような訳で、何となく因縁もあり季節的にも無難な油絵二点、「鏡のある静物」F50と「ミニヒマワリ」F10、を選んでみた。「鏡のある静物」は絵の中に鏡が描かれ、それに壺などの裏側が映っており、一輪の花を見る。背面を走る鳶がどうなっているのか、想像しなくともよい。緑陰の窓辺の一齣を描いた絵に見る遊

び心である。「ミニヒマワリ」は名の如く小さく陽気である。まるで孫娘を見るようで可憐でもある。ヴァーミリオンで暑さを表してみた。デザインとしてはこの方が蔵書票には向いている。絵は描きたいと思った時にキャンヴァスに向かい、徐に絵の具を搾り出す、これが私の絵に対する哲学である。孫娘のような絵が描ければ最高であるが、無邪気は“加齢とともに去りぬ”である。

私はブリューゲルの絵が好きである。先般、森洋子の「ブリューゲルの諺の世界」と「ブリューゲルの子供の遊戯」を購入した。本の表紙や装丁を見た途端、蔵書票を貼ってみたいくなるものがあるが、この二冊はそれに相当する。早速、自作のミニヒマワリの蔵書票を貼って悦に入っている。

学術誌の表紙には得てして野暮ったいものが多いが、米国医師会誌 JAMA は違う。毎週世界の画家の作品が楽しめる。そして、その解説が“THE COVER”として一頁を費やし、本文の最初に陣取っている。これは、絵を愛好する者にとっては堪えられないウィークリー・ギャラリーである。

吉南医師会報（1990 年新年号）の表紙に、やはり私の油絵（「北欧の港」F40、この時はモノクロ）を載せていただいた。それにしても、伝統ある医師会報の表紙を二度までも飾ることができたことは光栄である。

Contents

も く じ

●表紙写真に寄せて……………	吉南	柳澤	慧	2
●トーマス・マンの「ヴェニスに死す」をめぐる…	岩国	竹川	一志	4
●カエル……………	岩国	安陵	成浩	7
●ピクニックのお誘い……………	小野田	田原	康彦	8
●岩木山（青森県）……………	下関	原	八洲雄	9
●貝類の収集と瀬戸内海の二枚貝の生息調査……	玖珂	羽熊	直行	12
●ごめんなさい……………	山口	河野	俊貞	13
●白州次郎になる……………	小野田	山田	覚	15
●我が家の農園歴……………	宇部	山本	一男	16
●古希を迎えて……………	宇部	杉	直人	18
●下松市で山口県初の高度不妊治療（ART）を 行うクリニックを立ち上げて……………	下松	山下	三郎	19
●インターネットオークションと模型工作の話…	岩国	小野	良策	20
●初螢……………		徳医	句会	21
●阿蘇南郷谷に咲く一本櫻……………	下関	織田	登	22
●山若葉……………	山口	国近	満男	24
●ノーベル賞とその背景……………	徳山	姫野	英雄	26
●書……………	熊毛	高本	公	27
●あかざ と あかざ科食物植物……………	岩国	藤本	典男	28
●ホーチミン・ルートと枯葉作戦……………	下松	岩本	功	29
●まくら（真暗）の草子 ……………	下関	塩見	祐一	31
●オレ流・珍説オリンピック物語……………	徳山	望月	一徳	32
●深緑……………		竹秋	句会	35
●喉元過ぎないと……………	萩	売豆紀雅昭		36
●学生時代を過ごした鹿児島という街……………	防府	桜井	真人	38
●＜シリーズ酒場の戯れ話＞二度あることは三度…	宇部	綿菊	仁彦	39
●目薬の木……………	山口	山口	一紘	43
●消火器は重い……………	下関	加藤	康子	48
●もう一人の「カイシュウ」……………	吉南	小林	憲治	49
●お墓ってなんだろう……………	下関	筒井	秀樹	54
●皐月……………	阿武	原	晴朗	55
●杭州西湖に学んだ岩国の錦帯橋……………	岩国	吉岡	達生	56
●あとがき……………	編集委員	矢野	秀	59

トーマス・マンの「ヴェニスに死す」をめぐって

岩国 竹川 一志

この 6 月に 20 日間ほど二回に分けて入院した。前立腺肥大症にともなう経尿道的前立腺切除術 (TURP) と癌精査を行うためである。

退屈しのぎに文庫本 2 冊と新書 1 冊、昭和史の本と一人旅の本と岩波文庫のトーマス・マンの小説「ヴェニスに死す」と、そして二回目の入院時にはパソコンを持ち込んだ。そしてこの文章を推敲しながら書いている。

なぜトーマス・マンの「ヴェニスに死す」なのかと言えば、入院前に同名の映画の DVD をみてすっかり感激してしまい、原作の内容を再確認してみようと思ったのである。

この映画、1971 年にトーマス・マンの原作をルキノ・ヴィスコンティ監督が映画化した名作で、その年のカンヌ国際映画祭で 25 周年記念賞を受賞している。登場する美少年のことが話題になりぜひ見たいと思っていた。しかし当時は赴任先の病院から教室に帰ってきたばかり、属した研究班での 2 つのプロジェクトの立ち上げに追われて帰宅するのはいつも深夜近く、映画どころではなかったのである。そしてそのまま忘れてしまっていた。

最近になってこの映画「ヴェニスに死す」が DVD 化されることを知り、いつも利用している Amazon.co.jp に予約しておいた。それが 5 月の初めに届いたのでさっそく見た。

漆黒の闇から蒼みがかった灰色、そして真紅からオレンジへと移り変わっていく朝焼けのグラデーション、穏やかな海の彼方からクラシックな蒸気船が煙をたなびかせながら次第に近づいてくる。バックにはマーラーの交響曲第五番の第四楽

章アダージェットがしっとりと流れてきた。悲哀にみちた結末をなんとなく予感させるような素晴らしい映像である。この印象的な曲はラストシーンを含めてさまざまな場面で使われていた。

このアダージェットを初めて聴いたのは十数年前になる。広島から札幌へ飛ぶ ANA 機の中だった。私はいまでも飛行機が苦手で、席に着くといつも気を紛らすためにヘッドホンをつけることにしている。水平飛行に移ったところ突然天から降ったかとおもわれるうっとりするような音楽が聴こえてきた。ハープと弦楽器だけによる魅惑的な曲である。改めてプログラムをみて曲名を知った。そのときはとても穏やかなフライトで、おかげで札幌でも楽しい時間を過ごすことができた。

マーラーの交響曲群は概して長大で難解だと言われているが、交響曲第五番の第四楽章は優雅でなじみやすい曲である。それからいろいろな映画やドラマなどのバックグラウンドミュージックとして使われているようだ。

余談だが、交響曲第五番は 42 歳のグスタフ・マーラーが 21 歳のアルマ・マリア・シントラーと結婚した年、1902 年に作曲され新妻アルマに捧げられたもので、特に第四楽章のアダージェットは二人の愛を表現した曲だともいわれている。

海から眺めたヴェニスの風景がよい。やはりヴェニスへは陸路ではなく海から入るべきなのだろう。ふらりとヴェニスに辿りついた眼鏡をかけ鼻下に髭をたくわえた、ダーク・ボガード扮する初老の音楽家アッセンバッハ。水浴ホテルに宿をとる。初日の晚餐の席で、彼は息を飲むような端正な美少年を見かけた。わずかな仕草にも恥じらいを見せるようなこの少年タッジオの天性の美

貌に心を奪われていく。気候上の理由と心の葛藤からこの地を離れようと試みるも少年の美しさに抗しきれず、再びホテルに戻ってきた。以心伝心、二人の間には何かしら通じるものが生じてくるが、それ以上には踏み込めない。初老のアッセンバッハはこの美少年に恋をしてしまったのだ。愛の深みに次第に身を沈めていき、若作りの厚化粧をしたり終には精神的にも身体的にも疲れ果ててしまう。とうとう少年一家がホテルを引き払う日がきた。朝日にキラキラ光る小波を背景に海の彼方を指差す少年の姿に手を差しのべながら、力尽き、長いすの中で崩れ折れるように亡くなっていった。ここでもマーラーの曲が流れてくる。

光の効果や色の変化を存分に駆使した導入部とかラストシーンの詩情豊かな映像表現が素晴らしい。しかも、マーラーの音楽がすべての映像を浄化してより一層効果的なものにしているようだ。

入院中にわたしは実吉捷郎訳の岩波文庫トーマス・マン「ヴェニスに死す」をくり返し読んだ。この本は学生時代に数回は読んでいたはずだが、改めて読み返してみるとストーリーはすっかり忘れてしまっていた。当時、1960年代の初期、われわれが教養学部生のころには旧制高校の風がまだ色濃く残っていた。医学生でも多少とも文学がかった学生はいわゆる教養書をけっこう読んだものである。小説類はあまり読まなくなり、私も昭和 35 年、平凡社から発売された世界教養全集、全 38 巻を購読しはじめた。ただトーマス・マンの小説「魔の山」、「ヴェニスに死す」などは当時の風潮として読みかじっていた。特に「魔の山」は大冊で基礎的な西欧の思想や古典の教養が無ければ難解で手におえないはずで、ほとんど理解できなかったのではないだろうか。すっかり古くなった筑摩書房の世界文学大系、「魔の山」が今も手元に残っている。

平成 5 年だったか大学に入学したばかりの長男に、本箱の片隅で埃をかぶっていたこれらの全

集を「譲ってやろう」と言ってみたが一瞥しただけだった。

原作では主人公アッセンバッハは無髭で初老の著名な作家になっており、疲れを癒すために出た散歩の途中で何となく気がかりな旅人に出会い、旅愁にとらわれる。そして思い立って避暑の旅に出る。最初の目的地は期待はずれで急遽ヴェニスに変更。そのあたりの話は映画では省かれていた。

ヴェニスに辿りついてからの筋書きは映画のそれとほとんど変わらない。

最初の晩餐の席でポーランド人一家のなかに見かけた美少年の姿をトーマス・マン(実吉捷郎訳)は次のように細やかに表現している。「…十四ばかりの髪の長い少年がひとり…アッセン

ンバッハはその少年が完全に美しいのに気がついた。蒼白で、上品に表情のどざされた顔、蜜いろの捲毛にとりまかれた顔、まっすぐにとおった鼻とかわい口をもった顔、やさしい神々しいまじめさを浮かべている顔…彼の顔は、もっとも高貴な時代にできたギリシャの彫像を思わせた。……自然のなかにも、造形美術のなかにも、このくらいよくできたものを見かけたことはない」。アッセンバッハはこの少年の歩き方ほかすべての動きに並々ならぬ優雅さを見出し、この人間の子のそれこそ神に近い美しさに感嘆し驚嘆したのである。

病弱の身には耐えがたいシロッコのせいにして一時ヴェニスを離れようとするが、トランクが間違ったところへ送られてしまうという「幸いなる不運」によって再び同じホテルに舞い戻ってくる。もう二度と少年のもとを離れる気はない。彼はいたるところで少年を見かけ、少年に出会った。しかし思い切って言葉をかけようとしてかけられない、親しくしようとしてもできない。

それからの二人はただの見知り合い、淡い認知という関係のまますごしていく。それを原作では「…いつも互いに出会って眺めあいながら、そ



のくせ挨拶もせず言葉もかけず、冷淡なよそよしさの外観を維持する……彼らのあいだには、動揺といらだたしい好奇心があり、…不自然な抑圧された認識欲と交換欲とのヒステリイがあり、一種の緊張した尊敬がある。人間は、人間を批判しえないうちは、彼を愛しかつ敬うものである。あこがれというものは、不足した認識の所産なのだから」と述べている。確かに夢中で愛し合った男女も、お互いに知り尽くしてしまえば愛も尊敬心も消えうせ後には倦怠と蔑みのみが残ってくる。知らぬが花なのである。いくら憧れ、欲した美術品や貴重品でもいったん手に入れてしまえば愛着も所持欲も消えうせ後は飽きと放置のみが待っている。

ふとした機会に少年の微笑とも苦笑ともつかない笑みがアッシェンバッハに投げかけられたことがある。それは見事な笑み、まるでナルシスの微笑だった。何か宿命的な贈り物のようにその微笑を受けとった彼は急いで部屋に帰り、愛慕のきまり文句を口にしていた。「わたしはお前を愛している」。アッシェンバッハはこの美しい少年に恋をしてしまったのである。

美によって知性は眩惑されてしまう。爵位までえた著明な作家という尊厳をも失ったかのようだ。最後には自ら少年の跡を追ったり、待ち伏せしたり、寝室の窓辺に佇んだりまるでストーカーまがいの行為に走ってしまう。

あれほど恐れていたポーランド人一家がヴェニスを離れる日がきた。主人公は病にも冒されて、心身ともに疲れ果て最後に浜辺に佇む少年の姿を目で追いながら力つき、長椅子の中に崩れ折れていった。

死を賭して純粋にひとりの美少年を愛し、溺れるように力尽きてしまった老作家が哀れである。

一回目の退院後に映画「ヴェニスに死す」に関連した知識を仕入れようとインターネットの HP を手当たり次第に検索してみた。そして興味深い二、三のことに気がついた。

トーマス・マンを検索中に新婚当時のカーチャ夫人の立像写真を見つけて驚いてしまった。カーチャ夫人は数多の文豪夫人の中でも一、二を争う

美人だったといわれる。蒲柳の質をおもわせる薄い胸、まるで少年のようだ。きりっとした口元を除けば、映画の美少年役であるビョルン・アンドレセンにまるで瓜二つなのである。その HP の筆者もヴィスコンティ監督はきっとこのカーチャ夫人をイメージしながら美少年を捜し求めたのではないかと書いている。多分そうだろう。監督はカーチャ夫人に似たこの絶世の美少年を目にしたとき、きっと映画の成功を確信したに違いない。一方、トーマス・マンも神に近いと表現した小説中の美少年のイメージを身近にいる夫人の美貌の中に求めたのかもしれない。写真で見たカーチャ夫人の容姿は毅然として印象的であった。

ヴィスコンティ監督によって見い出され、タッジオ役に抜擢されたビョルン・アンドレセンは当時ストックホルムの音楽学校に通う 15 歳の少年だった。この作品で有名になった彼には映画出演のオファーが山ほど舞い込んだそう。しかし彼はさらに音楽を学ぶためすべての話をことわり、きっぱりと銀幕世界から姿を消してしまった。33 年がたった現在もその消息は知れないとか。

それが自分の意思だったのかどうか。いずれにしろ彼がとった行動は賢明だったとおもう。

なぜならば、映画「ヴェニスに死す」の映像が世にあるかぎりビョルン・アンドレセンという少年の類い稀な美貌は 15 歳のときそのままに、神秘的な宝石のごとく魅力を持ちつづけるだろう。

美の神とは皮肉で残酷である。絵や彫像ならばいざ知らず、生身の人間の美とは清楚な少年、少女の美(いや、少年の美と断言してもよいかもしれない)をピークとしていずれ脂ぎって胸焼けするような成熟、衰えなる老醜へと落ち込んでいくだけなのだから。



カエル

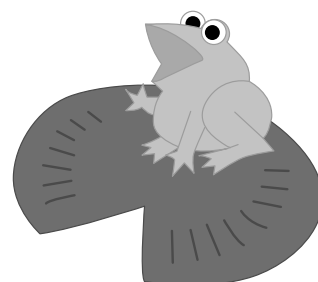
岩国 安陵 成浩

高校 2 年の時だったと思う。みんなが集まって話をしているときに、珍しく怪談になった。たわいもない作り話から、ほんとに背筋が凍るような話もあり、いつになく盛り上がった。その中の一つに「北側の窓を開けて勉強をしていると、気づかぬうちに幽霊が部屋に入り込み、振り向くと立っている」といった内容の話があり、妙に心に残った。ほかでもない、自分の部屋には北側にしか窓がなかったせいだ。

テスト期間ではなかったが、当時はよく勉強をしていたところで、その日の晩も机に向かっていた。初夏の頃で汗ばむほど暑かったが、昼の話が気になり、窓を開けることができなかった。それでも 1 時間ぐらい頑張っただろうか、暑さに耐えかね窓を開けた。家は周囲を田んぼに囲まれ普段でもカエルの声はうるさかったが、この日は大合唱の状態だった。こんな時はだいたい勉強に身が入らないもので、いらいらしながら時間だけが過ぎていった。するとある時、急にピタッとカエルが鳴きやんだ。近くのカエルだけでなく遠くのカエルも一斉にである。突然の予期せぬ静寂に忘れていた幽霊話が急に頭をもたげ、ものすごい恐怖感が襲ってきた。うしろを見ることができないどころか動けなくなってしまった。3 分ぐらいが過ぎた後だったか、地響きとともに地震が起こった。そう大きな揺れではなく、直ぐにおさまった。揺れがなくなってやはり 3 分ぐらいだろうか、1 匹のカエルが「ゲコッ」と鳴き始めると方々から後を追って鳴き始め、直に元の大合唱の状態に戻った。幽霊ではなくほっとしたが、動物の予知能力なのかと感動したものである。もし身体で感じた揺れが S 波のものであったとしても、カエルが鳴き止んだのは時間的に P 波到達の前だったはずである。

その後しばらく地震が起こらないまま、大学で神戸に行った。夜な夜な飲み会などしている最中や授業中に、無意識に「地震が来る!」「揺れる!」と口走るようになっていて、不思議とその 3~5 分後に地震が起こった。あれ以来、変な力がついてしまったようだ!?. 親友からは「なまずのおとやん（兄が同学部同学年に在籍していたので）」と呼ばれることもあった。大学の 6 年間、当然見逃す? 地震もあったが、感じたときはほとんど地震が起こった。卒業後もやはり感じ続け、当然 H7 年の阪神大震災の時も 30 分前にはなぜか起き出し、直前には「揺れる!」と叫んだ。ただ残念なことにその頃を境にあまり感じなくなったように思う。

H11 年に岩国に帰り、芸予地震は感じなかった。今は診療所の近くのマンション住まいで、カエルの声は聞くことがない。実家に泊まると聞くことができるが、子供の相手と疲労のせいか、いくらうるさくてもカエルの声は意識の外である。この秋、縁あって実家の近くに引っ越すことになった。周りは蓮田で囲まれ否が応でもカエルの声を聞くことになりそうだが、「騒音」という家内の心配とは逆に、僕はまた地震の予知力が戻るのではと密かに期待している。ただ、カエルにとってそんな直前に地震を感じることがどんな利益があるのだろうか? 僕の場合もあまり意味はないのだが・・・。



ピクニックのお誘い

小野田 田原 康彦

我が家では、休日に家族で「山」へ行くことにしている。「山」と言っても、私の住む小野田市付近には、超低山しかない。しかし、これが我が家にとっては、まさに好条件なのである。なぜなら、まだ小学校や幼稚園に通う子供たちがいる我が家にとって、技術が必要な山は危険であり、それに引き換え低山は、容易に挑戦できる格好の鍛錬の場なのである。そもそも私も家内も家族で山に登ったことはない。さらに、今時の子供は外に出たがらない。ところが 1999 年、それほど体力に自信があった訳でもない私の妹が、厳しい条件の中いきなり富士山に登頂したのである。これには、スキー、スノーボード、スイム、ランをこなす我が家が奮起せざるを得ない。

2000 年 5 月より、標高 136m の竜王山（小野田市）を皮切りにピクニックを開始した。次にロープウェーで昇ったことのある防府市の大平山（631m）、そして、以前、国立下関病院（現国立病院機構関門医療センター）在職中に何度も訪れた深坂自然の森より登る牝鋤崎山（494m）に挑戦し、どうにか家族全員で頂上に立つことができた。これまで山登りなど一切興味を持たなかった私が、こつこつ歩き頂上に着くと、不思議な達成感があることに気が始めた。それと同時に、山は体に豊富な酸素を供給し、足腰を鍛えたり、種々の自然に触れたりすることができる。まず、2000 年の目標を私が中学生のとき修学旅行で登ったことがある久住山と決めた。

しかし、他に登山口、登山道というものを知らない私は、本屋で柳井医師会の中島篤巳先生著「山口県百名山」、「山口県の山」を捜し求め、我が家に適当と思われる山を吟味した。そして、秋吉台の雄大な草原を歩く秋芳町の龍護峰（426m）、道の約半分が参道となっている豊田町の狗留孫山（616m）、鶴が飛来する八代の烏帽子岳（680m）に登った。9 月、大分県の久住山（1,787m）は、小雨の中、歩を進め、どうにか完歩することができた。結局、2000 年に 11 山のピクニックを家族全員で成し遂げた。

すっかり自信をつけたわれわれは、2001 年 5

月の連休に、高原に雄大な火口が聳える宮崎県の韓国岳（1,700m）、海岸より空に向かい円錐形に突き出す鹿児島県の開聞岳（922m）に登った。子供たちの脚力は、私の想像力をはるかに凌ぎ、私の出す難題（山）を、次々にクリア（登頂）していく。秋には、大分県の由布岳（1,582m）に登り、2001 年に、17 山のピクニックを成功させた。

次に 2002 年 5 月の狙いを四国に向けた。しかし、ここで初めての大きな挫折を味わうことになった。愛媛県の石鎚山挑戦では、午前 3 時に車で自宅を出発し、やっと土小屋登山口に到着したが、天候が崩れ、雨が下から吹き上げる為、山道をまったく歩かず登山を断念することになった。翌日、徳島県に移動し、剣山（1,955m）に登頂した。同日、剣山スーパー林道でキャンピングカーが、コースアウトし不幸な事故が起きていた。親戚などの心配も他所に、我が家は元気に生還した。

秋には、愛犬のウエルシュ・コーギー・ペンブロックを連れて鳥取県の大山（弥山 1,711m）に登り、この年、大小 15 山に登頂した。

2003 年いよいよ最終目標に向け、豊田町の華山（713m）を何度も登り、仕上げに山口県最高峰の寂地山（1,337m）を楽しみ、ついに盆休みを利用して富士山へ向かった。山口宇部空港では同じく富士山を目指す山口市の耳鼻咽喉科ののはなクリニック院長兼定啓子先生のグループに遭遇した。しかし、神様は我が家に大きなハードルを与えた。登山当日は雨、気温は下がり溶岩の登山道は川と化した。それでも、登山大ベテランの叔父と叔母の協力を得て、もくもくと歩き続けたのだが、子連れのわれわれは 8 合目直前の山小屋主人に下山するように勧められて、あえなく撤退した。われわれの目標は未だ達成されていないが、今後、状況を見て必ず家族全員で日本一のピクニックを成就させようと狙っている。ピクニックは、個々の力量に応じて容易に挑戦できるので、どなたにもお勧めできます。（追記：もちろん、兼定先生は、豪雨の中、富士山に登頂されました。）

岩木山（青森県）

下関 原 八洲雄

6 月のすがすがしい朝。朝日をうけて輝く山頂を目にして、歩き始めたのが 5 時 30 分でした。ブナの木とも違って、背の高い、木肌の少し白っぽい、萱（かや）の木々の中を歩いて、ようやく周囲にダケカンバの木が目につくようになってきました。既に 2 時間以上も歩き続けて、しかもこの 1 時間ほどは、かなりの急登の連続です。このあたりで、朝ご飯にしておかないと、と思って腰を下ろしました。時計は 7 時 40 分をさしていました。

ポットのお湯で味噌汁を作り、昨夜のうちに求めておきたいなり寿司を口にして、一息入れます。

それにしても、と思いは登山口での出来事に戻ります。

岩木山神社前でタクシーを降り、よしこれからだと、靴のひもを結び直しているときでした。「登るの、登れるのかな」と突然の大きな声。振り向くと、中年男性が一人、自転車を手に僕を見つめています。「ええ、まあ」と生返事を返します。「まだ雪があるでしょう。すごい。この時間から登る人は初めてだ。このところ毎朝、山菜採りに来ているけど、初めて見た。」と感心しきりです。

もともと少し不安感を持っていた僕は、「まあ、登れるところまで行って、だめなら帰ってきます。そうせんとしょうがない」。本当にそう思っていたので口にしました。「自分も子供の頃に登ったけど、4 時間以上かかって、そのときはもう少し早い時間から登り始めた。」と言います。「いやあ、僕ももう少し早くから登りたかったんですが、何しろ初めての土地で、あまり早くから動いて、何かあってかと思って…」と僕。

「すごい、気をつけて行って。これ持って行って。ジュースいいじゃない」と渡してくれます。大変な感激ぶりです。渡されたジュースの缶は冷たくて、「ありがとう」ともらって、ザックにつめて歩き始めたものの、彼が気になって振り返ってみました。彼は、腰を丸めて、神社の水道でザブザブと勢いよく顔を洗っているところでした。毎朝の山菜採りか、自営業かなと彼の日常を思いつつ、何本かの鳥居の並ぶ、木立で暗い参道をゆっくり歩き始めたのでした。

神社本殿の前にある山門の両脇には、刀を胸にした、白っぽい塗りの武士の座像が一体ずつあり、めずらしいと感じたのでした。

本殿にお参りして、左手にある登山道に出てみると、現在地の高度が 230 メートル。山頂が 1,625 メートル、所要時間 4 時間 15 分とあります。

登山にかかる時間はともかくとして、高度差 1,400 メートルが僕の気にかかりました。1,000 メートル程度の高度差ぐらいは、しばしば歩いてきておりますが、1,400 メートルは、どこかそん



朝 5 時過ぎ、弘前城跡よりの岩木山

な山あったかなど、過ぎし日の山々が頭を駆けめぐります。まあいいや、登れるだけ登って、天気もよいことだし、時間も早いから、どうにでもなると歩き出したのでした。

朝食をとりながら、それにしても 2 時間は来ているので、もうそろそろ森林限界を超えないと、山頂までの、ほぼ半分は来ているはずと思いながら、食べ終えて歩き出しました。さらに登りが急になります。しかし、ものの 5 分も歩くと、焼止まり避難小屋に着いたのです。急な斜面にたっているの、奥行きのない小さな小屋でした。小屋の前を、ほぼ水平に歩くこと 15 分、とうとう雪溪に出くわしたのでした。

というのも、青森空港で乗った、弘前行きバスが町中に入るにつれて、岩木山が近づいてきます。裾野を広くもった秀麗なその山肌に、山頂に向かって三筋四筋と、かなり大きい雪溪があり、一段とこの山を美しく見せてくれていました。

今から登ることになる雪溪の上の方を見ると、目の届く範囲は雪です。

昨日までは、せめて四本爪のアイゼンぐらい用意しとった方がよいかと思いながらそのまま来てしまっ、ピッケルなし、アイゼンなし、杖なし、滑ったら終わりだな…と思いつつ、雪面に足を踏み出してみます。雪面は柔らかく、登山靴が少し沈みます。それにこの快晴の天気、これならなんとかなりそう。それにしても日差しが強い。サングラスまでは思いが届かなかったけど、

せめて持ってきていた日焼け予防のクリームぐらいはと、顔面から首筋と丁寧に塗り込みました。

一人きりの登りです。ついさっきまで賑わっていた鳥の声もありません。雪溪も上の方になると急登となります。雪面を歩き始めたのが 8 時 15 分、歩き続けて 9 時過ぎても、まだ雪溪を登りつめきれない、一休みしてまた登ります。ようやく雪溪が終わって、登山路が目につき始めた頃から、今度は今までとはうってかわって、ガスの中。自分の周囲さえ見えにくくなります。それでも目の前の登山路がはっきりしていますので、あまり心配もせず登っていると、また雪溪に出て、池さえ目に入ります。また雪溪か、もう雪溪を登るのはいやだな、と立ち止まります。あまりに強い風をよけて、今登ってきた路を少しおります。地図を取り出して、自分の位置を確かめます。どうみても、もうそろそろリフトからの道と合流するはず、そうは思ってもこのガスの中、雪面に足を踏み出すのは、ためられます。引き返すか、登ってきたばかりの雪溪を無事降りられるかなと、しばしたずんで上の方を見ていると、ほんの一瞬、この雪溪は小さくて、すぐ上に小屋の屋根さえ見えます。なんだと全体が把握できたのです。よし着いた、少なくとも 8 合目から 9 合目あたりに来ている。一気に雪溪を登りつめたところが、鳳鳴ヒュツテでした。ヒュツテといっても、この時季まだしまっていて、しかも避難小屋程度の小さなものです。この小屋の前で雨具のゴアテック

上下を身につけている時でした。山頂の方向から降りてくる 2 人連れがあります。車とリフトで登ってきていた夫婦です。ご主人が、この先山頂までの様子を話してくれます。少し送れて降りてきていた奥様が、「百名山ですか」と口にします。「いえ」とだけ答えて分かれたましたが、そういえば、さっき地図を見たとき、この山に百名山の赤い印が付いていたな、なるほど百名山かと考えながら石また石の斜面を風を受けながら登るのでした。

このところ、百名山が一人歩きして、あっちの山、こっちの山で迷惑



岩木山 神社前から

をまき散らしています。僕自身は、人様の百名山をたどる気は、毛頭ありません。

さらに、2 組、3 組と降りてきます。皆さん下山にかかっている中を最後の登りです。

山頂の祠にお参りして、時計を見ると、10 時 25 分でした。タクシーを降りて、岩木山神社前から歩き始めてちょうど 5 時間です。雨と風の中、急いで下山にかかります。リフトの人たちは皆さん下山した後で、再び自分一人の静けさです。

リフト案内の拡声器が「天候の急変のため、リフトの運行を止めます。山にいる人は急ぎ下山してください。」と先ほどからくり返し叫んでおります。雨と風に、足を取られながらも、おいおい、もう一寸と待ってくれや、おれもついでに下ろしてくれと、リフトと書かれた矢印にしたがって急ぎます。

リフト乗り場には、若い男性の職員が一人残っていて、「あと登山者は残っていませんでしたか」と尋ねます。「いや、僕が最後、あとはだれもいません」と回転してくるリフトに乗ります。「乗車賃は下で精算してください」と一言。ゆっくりと動くリフトに揺られて下山したのでした。

十分に満足した岩城山から帰った翌日（2004 年 6 月 11 日）この日も大変よいお天気で朝を迎えました。これなら八甲田へ行ってみようと、青森駅前からバスで出かけました。

八甲田大岳の山頂近くまで来ると、偶然にも、昨日岩木山鳳鳴小屋前で出会った、岡山からのご夫婦に再会しました。別のもう少し若いご夫婦と話し込んでいるところへ僕が顔を出したのでした。挨拶をしますと、「あら、あら、今あなたのことを話していたところでした。」と 2 人で笑われます。そうでしょう、そうでしょう、車とリフトで 8 合目まで登れる山を、4 時間以上かけて登ってくる変な人がいる。話題提供者の 1 人になっていたようです。

大岳の山頂から、^{ス カ ユ}酸ヶ湯温泉へ向かって降りる途中、岩木山を正面に眺められるところに出ました。ここでお昼だ、とパンとコーヒーで、楽しんでいますと昨日のことがいろいろと頭に浮かんでは消えます。一人静かな山です。ここまですると、ほとんど登山者はいません。そのうち、ほぼ同年配と思える登山者が一人、こっちに向かって

登ってきます。「いい眺めですよ。岩木山、昨日歩いてきたところですので、神社から 5 時間もかかっちゃいました。」と僕が声をかけます。「歩かれたですか。神社からですと僕も 5 時間かかります。それにしても健脚ですね。」と誉めてくれます。「いや、今日はもう、ばてばてですよ。」と僕。「ピンクの小さな花が咲いていたでしょう。あの花は、コシのコザクラといって山の上の方から下へ向かって、雪解けを待って咲いてくるんですよ。」とのこと。少し紫がかった、白山コザクラに似た花で、登山路の上の方で、そこここに咲いていたのでした。この人は今から、大岳へ登って、^{ケナシタイ}毛無岱の湿原で花を楽しんで、登山口の酸ヶ湯温泉へ下りるといって登っていきました。

このたび、第 66 回耳鼻咽喉科臨床学会長を務められた、弘前大学、新川秀一先生のご案内の中に、青森の新緑を楽しむようにとのことのお勧めがありました。そのお誘いに率直にしたがって、学会は 2 日目の 12 日（土）だけ出席しました。

会長の閉会の辞まで残っていたのは、80 名だったようです。閉会前、パネルディスカッションの司会をされた、前日耳鼻理事長の小松崎先生が「今、数えてみたら、80 名残っています」とのことでした。

僕にとっては、本当に素晴らしい学会となったのでした。



貝類の収集と瀬戸内海の二枚貝の生息調査

玖珂 羽熊 直行



私の趣味は貝類の収集と瀬戸内海の二枚貝の生息調査です。貝類の生態の面白さと、その美しさにとりこになっています。まず、山口県と、特に見島、広島県の津々浦々を歩いて、貝採集をしましたが、一番難しいのが貝類の同定です。10冊ばかりの図鑑とにらめっこしてもわからず、解らないものが多く、岡山大学の福田宏先生に同定では随分お世話になりました。いつまでも人に頼っておれないので、同定の助けにインターネットで貝を数多く注文しました。インターネットオークションを使うと割に安く手に入りました。実物があると、同定が相当楽になります。高いのは1個2万円もし、安いのは100円以下です。今2,000

種類ぐらいの貝を集めています。でも、日本には名前のついている貝だけで、1万種類ぐらいあるといわれていますから、まだまだ。

最近、瀬戸内海で二枚貝が取れなくなったと、一般にいわれ、マスコミも取り上げることも多くなりました。とくに、アサリが取れるところが少なくなり、ハマグリはほとんど取れなくなったといわれます。そこで、瀬戸内海西部（広島県西部と山口県）の湿地で、二枚貝の生息調査を行いました。2002年5月より10月まで、広島県西部で10か所、山口県で30か所調査を行い2003年の岡崎市での日本貝類学会総会のときに発表し

ました。私の提唱するアサリ度数では、100 点(成貝[径 3cm 以上]が 30 個以上)は広島県で 4 か所、山口県で 1 か所でした。広島県と山口県の両県では 70 点(成貝 19 ～ 29 個)は 3 か所、50 点(成貝 10 ～ 19 個)は 2 か所、30 点(成貝 1 ～ 9 個) 11 か所、20 点(10 個以上、成貝なし、幼貝のみ)は 4 か所、10 点(1 ～ 9 個、成貝なし、幼貝のみ)は 8 か所、0 点が 7 か所でした。広島県西部 10 か所の平均は 60 点で、山口県東部の平均は 15 点で、山口県中部平均は 31 点で、山口県西部の平均 24 点でした。山口県の 30 か所の平均は 23 点でした。ハマグリは 2 か所厚狭川河口と宇部市岐波キワラ浜でのみ認められました。学会誌に載せた論文の全文は私の作っている HP (<http://www2.ocn.ne.jp/~haguman/>) に載せています。

今年は、瀬戸内海全域の 8 県の大きな川の河口の調査をしています。現在、東は兵庫県の赤穂市の千種川から西は大分県宇佐市の駅館川まで 10 か所終わりました。この調査は来年の貝類学会総会で発表する予定です。



アサリが今年は特に不漁で、山口県では昨年は一昨年の 1% しか漁協の水揚げがないとのこと。その原因はいろいろ新聞で取り沙汰されていますが、私の印象では川の水量の減少が一番の原因ではないかと思います。森林の減少、ダムの建設、杉林の放置、昨年夏の小雨などが川の水量を少なくした原因でしょう。川からの栄養が少なくなり、農薬や除草剤や合成洗剤など有害な物質が濃縮されたのがアサリ減少の大きな原因と思っています。

~~~~~

## ごめんなさい

山口 河野 俊貞

最近、幼児・学童の不慮の事故が報道されています。近代ビルの回転式ドアは施設企業の責任において改善が行われるのは当然として、各種遊具に原因する傷害は設置している行政や施設設置者による点検と保全というまでもなく、加えて親の指導責任にも負うところが大きいだと思います。各種道具に原因する事故・傷害について「ごめんなさい」と申し上げたいと思います。

私はかつて山口県医師会で、山口県地域医療計画策定の一環として、平成元年から平成二年にかけて山口県教育現場等における乳幼児・児童・生徒の発病・受傷の実態調査と山口県における乳幼児・児童・生徒受療者実態調査(資料末尾に記載)に係わったことがあります。その結果について、子どもの保健環境の整備、医療環境の充実、福祉環境の拡充その他スポーツ振興奨励等多岐に

わたって提言しました。

これらは医師会内部では会務の指標となり、行政面では地域医療計画の充足を促しました。

発病・受傷状況の調査では、全調査 2 万 882 名のうち、遊具に原因するものが 858 名 (4.1%) ありました。内容としては保育所 (8.3%)、幼稚園 (8.1%)、小学校 (6.1%)、中学校 (0.7%)、高校 (0.5%)、福祉施設 (1.0 %) で、数こそ少ないが低年齢層に多いことを把握しました。この結果から、各種遊具の危険性や整備点検の必要性については特に提言として注意を喚起しておりませんでした。今になってみるとこれについて積極的に提言し、各種遊具の点検と子どもの体力に応じた遊具のあり方について検討すべきであったと反省しています。

些細なことかもしれませんが提言としてまとめなかったことが、今回の各種遊具による傷害の発生要因になったのではと思い、今ここに「ごめんなさい」とペンを取った次第です。しかし、岩国市医師会の井上清先生は行政に提言し、子どもの体力に相応しくない遊具の撤去を申し入れて実行されたと聞いています。

私も近くにある児童公園の遊具について管理者に点検を進言したところ、着任早々もかわらずに点検され修理困難として封印された A 氏(故人)のことが思い出され、今もその対応に敬意を払ってやみません。

最近の県医師会報で、山口県医師会と山口県小児科医会では小児救急医療対策について真摯に取り組まれ、7 月から準夜間帯の小児救急電話相談サービスを下関・宇部・徳山医師会が輪番でパイロットスタディ、として展開されると拝見し、地域医療の新たな展開に安堵しています。

また今年は患者調査と医療機能調査が行われるそうですが、かつての統計手法とは IT 化の進展から容易にはなっているかもしれませんが、原理原則には変わりはないと思います。会員・医療機関の参加しやすい手法がとられ、今後の医療を左右する重大な課題として取り組まれることを願っています。この機会にもう一言、平成 23 年に行われる二巡目の山口国体に向けて県行政と各競技団体は強化に躍起となっています。前の国体に参加した者の一人としては、まだ早いのか県民のな

かに熱い思いがみられないように思われます。

県医師会にもいろいろと要請があるでしょうが、県医師会主導で日本医師会認定健康スポーツ医 (170 名)、日本体育協会公認スポーツドクター (84 名)、日本整形外科学会認定スポーツ医 (65 名) について資格取得者に一部重複もありますが総勢 237 名の大同団結をされ、また河合伸也先生 (現山大副学長) が山口県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長として活動を開始されたことは喜ばしいことで、競技選手も各方面からのサポートで成果が得られることでしょう。

国体に関しては選手もですが、観衆の安全のために救命救急に関する処置も必要と思っています。平成 14 年の静岡国体では主会場に AED (自動体外式除細動器) を配置したと聞いています。折から ACLS について今後山口県医師会でも研修事業にあげられていますので、その成果は県民の安心をよぶこととなるでしょう。この ACLS の普及により会員が何時でも救急に対応できる態勢をとることは国体においても競技選手と観衆の皆さんの救急安全に寄与するものと信じています。

「ごめんなさい」と後から言うことのないようにと思って、貴重な紙面でばやきましたことお許してください。

#### 参考文献

(平成元年 10 月 18 日実施、山口県医師会・山口県) 山口県教育現場における乳幼児・児童・生徒の発病・受傷実態調査  
山口県における乳幼児・児童・生徒受療者調査報告書





## 白州次郎になる

小野田 山田 寛

夏のような強い日差しの春の日の午後に、一本の電話がなった。

「県医師会報に随筆を書いてくれ」との市医師会会長からのお願いだった。丁寧にお断り申し上げていたのだが、最後に「よろしく」の一言で電話は切れた。優しい声の奥に潜む威圧感に断ることができなかった。

そんな時、尊敬する人物である白州次郎のことが頭をよぎった。

第二次世界大戦後のアメリカの占領下で、吉田茂首相の側近として連合軍総司令部 (GHQ) と対等に渡り合い、日本の復興に尽力し、“唯一、従順ならざる日本人”と言われた人である。

その白州次郎を知ったのは、大学生時代の行きつけの飲み屋だった。レジの横に“白州次郎”と大きく書かれた紳士が表紙になっている 1 冊の本があった。「この、はくしゅう じろうってだれです？ 酒の白州（はくしゅう）と関係あるんですか？」とマスターに問うと「“はくしゅう”とちゃうで“しらす”。酒の白州は関係ないねんけど、君が時々飲むマッカランとはちょっと関係あんねん。この本貸したるから読んでみ」とコテコテの大阪弁で教えてくれた。ほろ酔い加減で帰宅し、何気なく本に目を通していたが次第に引き込まれ一気に読み終えることとなった。

白州次郎は兵庫県芦屋市生まれ。もちろん御曹司であった。身長は 180cm の美男子であった。大正時代に約 10 年間、イギリスのケンブリッジ大学に留学した。大変な車道楽で、留学生でありながらベントレーを乗り回し、イギリス中を同級生と旅をした。また、お洒落にもうるさい人であった。イギリス製のスーツを颯爽と着こなし、身につけるものは一級品のみだった。それでいて、ジーンズを最初にはいた日本人といわれている。

第二次世界対戦終了後に、古くから親交のあった吉田茂首相に請われ GHQ とわたりあった。イギリス留学で培った流暢な英語で、筋の通らない

ことは認めなかった。次のような挿話もある。天皇陛下からマッカーサーに送る誕生プレゼントを託された。マッカーサーのまわりの机の上はプレゼントでいっぱい、床においておけと目配せすると「私が天皇陛下から託されたプレゼントを床などに置くことはできない」と烈火の如く怒りだしたところ、すぐに新しい机が用意されたという。

その後、東北電力の社長等を経て、晩年は軽井沢ゴルフ倶楽部の支配人として運営に情熱を注いだ。いつも 1 番ホールティーグラウンドの見える場所から会員を見守り、マナーの悪いものにはその場で雷を落とすこともあったとのこと。ゴルフをする方であれば“PLAY FAST”の文字を目にしたことがあると思うが、これも白州次郎が T シャツに書いて会員に渡したのが最初である。ここでも逸話があり、田中角栄首相が護衛を連れてゴルフに来たとき「プレイするもの以外コース内には入れない。イヤなら帰れ」とやったところ、田中首相が謝りプレイをしたという。

他人を怒るだけでなく、仕事は自ら先頭に立ち率先して行い、無理を言い遅くまで働かせた者には、後から酒の差し入れや遅い時間であっても労いの言葉をかける等のフォローを入れたとのこと。筋を通す人間であり、人望は厚かった。

この文字数ではとても書ききれないが、以上が白州次郎の簡単な紹介である。

その後マスターに、何冊かの本を借りて読み、酒を飲みながら白州談義をしていたが、今考えると、憧れ真似をしていたのは、車やお洒落にこだわるところで、肝腎な部分がみえていなかった。この随筆を書きながら、流される人生ではなく、一本筋の通った人間になる努力をしよう。勇気をもって断ることのできる人間になろうと決めた。少しでも尊敬する白州次郎に近づけるように…。

夏の強い日差しのさす、梅雨の合間の午後に書き終えた。PLAY FAST を実践するには絶好の休日の午後だった。

## 我が家の農園歴

宇部 山本 一男

あれは確か 17 ～ 18 年位前だったと思う。整理整頓の駄目な私は自分が執筆した「緑陰随筆」の年代も定かでない。孫の尾崎俊信(当時 3 歳位)が、我が家の農園(?)でサツマイモをかざした写真入りの物語でした。

最初の頃は、5 月の新川祭りで、トマト・ナス・キュウリの苗を買い、畑は鋤のみで畝作りをし、奥深く堆肥を敷き、高畝に仕上げて苗を満遍なく植え付けていました。収穫も取りたて、挽ぎたての果実を患者さんと分け合って食べた時代でした。

時は流れ、入院も止め、握力の低下と腰痛・膝痛に悩まされるようになると、段々と手抜きが多くなり、依然として、鋤のみの耕地ですが、畝は浅く、堆肥は少なくなり、それに、無農薬です。で、虫が付き易く、その上に、烏が果実を確実にゲットしてしまいます。

トマト等は最たるもので、完熟に近く、明日か明後日には挽ぎ取れると大変楽しみにしていて、次の日に挽ぎ取りに行く回数時間前に中身は烏に完全に抉られ、皮と未熟の部分のみが、残っている始末。(対策として{釣り糸}を上の方に張っておくと、烏は賢いので取りに来ないと最近教えてもらいました。試してはいません)。

畝も低く、堆肥もまばらで、烏に攫われ、年による疲れも加わり、段々と農作物を可愛がらなくなりました。そのためか判りませんが、あれほどたくさん居た「蚯蚓や蛾の蛹」が居なくなり、「モグラ」も来なくなり、蛇(特に青大将)も寄り付かなくなりました。

最近の多忙さと寄る年波の疲れと生来の怠け者体質が活力を吹き返し畑が段々荒れてきました。生き物は正直です。農作物はてき面に各作物に現れていました。特に果実は正直で確実に不作となりました。ここ 4 ～ 5 年は果実を諦め、根物に

焦点を合わせましたが、なかなか思うようになりません。遂に、3 ～ 4 年前頃から、玉葱・薩摩芋・じゃが芋の 3 点に絞り込みました。特に薩摩芋は荒地でもそれなりに収穫が出来、職員と一緒に薩摩芋堀をすると、非常に喜び出来ない作物でも感謝されます。よしよし好きなほど掘って、持って帰れとおおような気持ちになり、職員の喜ぶ顔を見て独りで悦に入っていました。まあ一、取りも構わんでも何とかなるもんだい。段々、横着心と自堕落な性格が優位を占め、畑には堆肥も撒かず、畝も三つ鋤で耕すというより撫でる程度に畑作りをしていました。

玉葱も同じ行程で“すぼら”を決め込んでいました。一昨年の玉葱収穫時期になっても玉は大きくなりません。種類が違うんじゃないの・植え方が悪かったんじゃないのなどなど色んな意見が出されました。結局小粒の玉葱を収穫しました。負け惜しみもあってか、「ロシア料理」の玉葱丸々煮込みはいけるよ! ゴルフボールより小さい玉葱をそのまま、シチューに炊き込み食べました。まあまあでしたが、その原因は明白です。何を隠そう {最大の原因は私の手抜きと生き物に対する私の完全な愛情と慈しみの心と行動の欠如の結果が現れたのです}。

玉葱さん、ごめんね! 折角地球上に産まれてきたのに、私の怠慢と愛情不足で不幸な生涯を終えさせて、済まなかった。

私は、申歳です。で、早速、反省をしました。(今年は申歳でした)。

歳を忘れ、畝を耕し、堆肥を埋め、やや高畝作りで、片面をじゃが芋・反面に玉葱と心を込めて植え付けました。水をやり、カリ入りの堆肥を根にあたらないように、気配りをし、「お前は、立派な苗だから、必ず大きく、美味しい玉葱とじゃが芋になるぞ!」と励まし、煽て、毎日のように

閑を見付けては語りかけました。

(これは、ロータリーの造園・花壇業の方から一作物は生き物です。慈しみの心と、真心を持って接し、子供や孫のような愛情を注いでやり、毎日、語りかけてやり、会話を交わし、励ましてやることです。体調はよいか、健康診断をして、さらには、{モーツアルトの音楽を聴かす}と一段と美しい花を咲かせ、一段と美味しさを増します。人間も、動物も、植物も愛情をかけ、真心を持って接すれば、必ず、報いがありますよ。と教わりました)。

そのことを思い出し、毎日とは行きませんが、以前と違い、時間と診療の合い間を見付けては、畑に行き、見回りをし、雑草を抜き、人通りがないのを確かめて「おい！ 大きくなって、美味しくなれよ」と《猿蟹合戦の早く芽を出せ柿の種》を思い浮べて語り掛けを始めました。

半信半疑の今年の玉葱・じゃが芋の収穫は思ったより、立派に、大きく、形良く出来上がりました。

私も試食をしまして、今年は上出来の範疇であることを確かめました。玉葱は包丁にも抵抗を示し、歯応えもさくさくとし、特に「甘い」という感覚は手答えも十分でした。

じゃが芋は、ふわーと茹で上がり、口の中で「ほくほく」感が十分に感じ取られ、美味しいの言葉がぴったりでした。

分け与えた友人の感想は「玉葱は甘くて美味しかった。こんなに甘いとは思わなかった。じゃが芋との美味しさでお酒を一杯多く飲んじゃった」、あり難く、嬉しい評価でした。感謝・感謝。

玉葱の収穫は葉の部分が十分に倒れて枯れているので楽でしたが、じゃが芋は鍬を使わず、手掘りですので、蹲踞と中腰の移動は結構老体には堪えました。次の薩摩芋の床作りは、深く堆肥を敷き、高畝を作ります。今までの畝を二等分して畝床を作ります。そして薩摩芋の苗を今回は愛情を込めて、一本・一本「美味しいお芋をたくさん作れよ」と語りかけながら植えました。夕日が落ちて、形が見えなくなるまで愛情を込めて、水を丁寧にかけてやりました。今年は乾燥が強いようなので、「スクモ」で十分覆ってやりました。

収穫を終えた、玉葱とじゃが芋と植えたばかりの薩摩芋の苗を畑の上で見比べ、お互いの会話を聞こうと並べてみました。



愛情を込め、生き物の親身になり、この世での一期一会を大切に、この苗を遅く、果実の美味しい稔りに育てる過程が今から始まります。私も最大の楽しみにして挑戦して行きます。

農作物が私に与えた教訓と反省は、多忙にかこつけ、高齢に胡座をかき、手抜きをすると、直ぐに反応が現われます。愛情を込め、心血を注ぎ、相手の身になり、この世での一期一会を大切に、その時々全力を傾注する古来からの教えを身に染みて感じ取りました。

患者さん、身内、知人、友人はもとより、小さい、小さい私の畑の農作物の生き物との出会いも、人との愛情も同じように思えます。

原稿締め切りで間に合わなかった課題としての「宿題」があります。それはメンタルテストとセラピーです。私個人も原稿を書く多くの場合は、バックに音楽を流しながら書いています。私は順番からすると、①：クラシック（特にベートーヴェン・シューベルト・チャイコフスキー・ショパン・ヨハン・シュトラウス等の順でモーツアルトはこの次位です）。②：演歌。③：フォーク。④：歌曲オペラ。⑤：オカリナ演奏等々です。

ロータリーの園芸専門家の方のご貴重なご意見を拝聴し、植物にどのようにして、音楽を聞かし、反応を見るかを夢見ています。

老骨にミュージックを与え、自分でもミュージックセラピーを試みつつ、農作物への音楽反応を試したいと希望を抱いています。

さて、何時のことになるのやら。何時の「緑陰随筆」に投稿できるか。

挑戦と楽しみで、美味しい、甘露な果実の稔りに今後も取り組んで参ります。

## 古希を迎えて

宇部 杉 直人

宇部市の渡木邦彦先生より古希について何か書いてほしいと、もの柔らかいが、何か強圧的な雰囲気を感じ、しぶしぶではあるが、わかりましたと表面上は素直に引き受けて書いたのが以下の駄文であります。ワープロの変換が旨くできなかったので読みづらいところもあると思いますがご了承ください。

人生七十、古来稀なり。唐の詩人、杜甫が唐の都、長安の南東にあった曲江という池の畔で詠んだ詩のなかの一節である。

『朝より<sup>てう</sup>回りて<sup>かえ</sup>日日 春衣を典し、毎日 江頭<sup>えい</sup>に酔<sup>えひ</sup>を尽して 帰る。

酒債は尋常 行く處にあり、人生七十 古来稀 なり ..

花を穿つ けふ蝶<sup>てふ</sup> 深深として見え。

水に転ずる 蜻てい<sup>くわん</sup> 款款として飛ぶ。

風光に 伝語す。共に流転して、

暫時 相ひ賞して 相ひ違ふこと莫かれと。』

朝廷を辞職し故郷に戻り、借金をしながら貧乏暮らしをしている、日々春物の衣服を質にいれ、その金で酒を買い毎日、酔っては曲江の畔に帰る。花の間を飛翔する蝶々が見え隠れし、尾を水に浸けていたトンボが緩やかに飛ぶのを眺めている日常である。

これら自然の風物よ私とともに流転していこう。しばらくの間、互いに、裏切らずに短い一生を楽しもうではないか。

乱暴だが大意はこのような意味らしい。人生は短い、70 まで生きた人は少ない。

つかのまの人生を楽しもう。自然と共生しながら。

ところがである、ご他聞に漏れず私もこの平成 16 年 4 月 24 日、満 70 歳になってしまった。年々、肉体の衰えるのに比して精神面では依然として

未熟のまま馬齢を重ねている。seven teen years old と言いたくても seventy years old であるから、言いたくても言えない。ところで馬齢を重ねるとは徒に歳をとり馬のように人に使役され無能なままに歳をとることらしい。馬や鹿からは逆にバカにするなど言われよう。ところがであるバカはなぜ馬鹿と表記されるのだろうか。調べたがわからなかった。

さて近年、男女とも寿命が延びて 70 は稀ではなくなった。平均からすると、あと 10 年は生き延びられるかもしれない。健康が維持できての話なら期待してもよからうが。

さて私は宇部市東岐波にあるシーサイド病院を 3 年 8 か月勤務して老人医療と向き合ってきて、老人医療と介護の狭間で悩み続け、延命処置の是非、自然死など、その解答が出せないまま、この 3 月末に退職した。今は庭の草取り人に再就職して日を送っている。年はとっても、草取り人になっても、物欲は衰えず、新車が欲しくて試乗会に出かけたり、デジタルカメラや望遠鏡など両手、両足にぶら下げた上に、さらに買い込んだりして蟹轡をかってもいる。このままで、勤務をしないと呆けるぞと言う人もいるが、今のところ大丈夫だと考えている。自分で気づいていないのかも知らないが。こんな調子で暇で時間はあるが時間がないと思うのが偽りのないところである。

あと余命が何年あるのかわからない。我や先、人や先、今日とも知らず明日とも知らず、死は思いがけずやって来る。毎日有意義に、悔いのないように、人様に迷惑をかけないように生きたいと、そして逝きたいと考えてはいるが、そう旨く行くだろうか。武士は死ぬ事と覚えたりと葉隠れにあるが人は死ぬのだと常に自覚して日常を過ごせば恥ずかしくない人生を送れるのだが凡人には、そうもいくまい。この歳になっても確固たる死生観を持ってない自分の不甲斐なさに反省しつつ馬齢を重ねているのである。あと何年馬齢を重ねたらよいのだろうか。

## 下松市で山口県初の高度不妊治療（ART） を行うクリニックを立ち上げて

下松 山下 三郎

平成 16 年 6 月 1 日より国、県及び市町村が一体となって不妊治療をサポートする事業が、2 年間という制限の中でスタートしました。いわゆる一般不妊治療にかかわる費用として 1 年間に 3 万円が助成され、より難治性の高度不妊のカップルに対して行われる ART(体外受精・顕微授精・胚凍結保存など)には特定不妊治療費助成事業と銘打って 1 年間に 10 万円が助成される、という内容です。

当クリニックが得意とするのは、ART にかかわるところですが、この治療には保険が適用されておられません。この点、治療費の助成が行われることはとても素晴らしいことと考えます。ただ残念なことは、ART には 1 周期の治療で 20 ～ 30 万円という費用がかかるのですが、今回の事業では 1 年に 1 回しか治療費の助成が認められない点です。また助成金を申請するのにご夫婦で年収 650 万円以下という条件もつけられています。年金問題や少子高齢化というテーマを持ち出すまでもなく、夫婦にとって子供を作り慈しんで育ててゆく、ということは何事にも変えがたい大切な尊い営みと思います。

私が ART を始めましたのは、十数年も以前のことになりますが、社会保険総合病院徳山中央病院産婦人科に赴任して伊東武久部長(現副院長)の下で仕事をさせていただいたことが契機となっています。私自身山口大学(鳥越正教授、加藤紘教授)で生殖内分泌学を勉強しておりましたが、不妊症の治療を続けてこられましたのは伊東武久先生の不妊治療への情熱の一部をいただいたためと、現在も感謝している次第です。その後、平成 3 年に山口大学に戻り加藤紘教授(現、山口大学

長)のご指示で中村康彦先生(現、山口県立中央病院部長)と 2 人で学内倫理委員会(梶井教授)にはかり山口大学で ART をスタートさせました。その後は、平成 4 年から周東総合病院で細々と ART を続けてまいりました。

山口県では、現在でも子供に恵まれないことに対する深いコンプレックスがあり、たとえその原因が男性の側にあっても、甘んじて女性がそれを一身に受けなければならないような風潮があるように思えます。さらに嫁ぎ先の夫の身内からもストレスを受ける場面も多々あるようです。

これまでも、私が経験してまいりましたのは、患者様自身がその不妊治療を受けていることを秘密にしたいと思っておられる、という事実です。そういう意味では、市町村の窓口申請書を出すことが、自分自身の秘密にしたいプライバシーの部分を発表するということになりますので、患者様にとっては随分悩ましい決断になるかもしれないと考えています。

最近の出生率の低下は、今更言うまでもありませんが、生まれてくる子供の約 100 人に 1 人は、私たちが行っている ART により、無事誕生した子供たちなのです。現状は、随分多くの方が ART の恩恵を受けることのできる時代となっています。

願わくば、山口県でも不妊の悩みを持っておられる患者様に、より身近な環境で不妊治療に向かい、一日も早く子供さんに恵まれていただきたいと考えています。

## インターネットオークションと模型工作の話

岩国 小野 良策

現在インターネット上ではさまざまなサービスが提供されていますが、その中のオークションに参加されたことのある方もいらっしゃるでしょう。

私も約 2 年前から時々利用していますが、うまく使うとあらかじめいたことがかなうこともあります。以下は私の個人的な利用経験です。

私は小さい頃から模型作りが大好きで今も続けています。最初は簡単なプラモデルから始まり、小学校の頃はゴム動力の飛行機を作り毎日のように学校の運動場へ飛ばしに行っていました。その後中学の頃に本屋で偶然見つけた「ラジコン技術」という雑誌を読んでからどうしても自分で作ってみたいくなり、模型用エンジンを搭載した無線操縦の模型（いわゆるラジコン）を作り始めました。

ただ、今思えば周囲に経験者もいない状況ではいささか無謀でした。キットを買えばすぐにできる代物ではなく、初めて買った木製ボートは完成までに 30 年！を要しました。といたしますのは、木製の模型はプラモデルと違いそのまま組み立てて簡単に完成することはありません。特にボートは船底部の微妙な湾曲を熱湯の蒸気で修正しながら作ります。当時はこれがうまくできず、おまけに目分量で部品を接着してしまったために以後の工程が不能となり 30 年間放置してありました。それをごく最近あることをきっかけに作り上げることができた次第です。もちろんその間いろいろなものを作り経験を重ねた訳ですが、これだけでは古い模型を復活させることはできませんでした。

もう一つのきっかけはインターネット

のオークションです。ここでは実にさまざまなものが出品されており、興味のない人にはただのものがらくたでも別な人にとっては宝のように思えるものが多く見つけられます。

模型にも流行があり、時間が経つと部品の入手が困難になって修理できないものもあったのですが、オークションで結構細々した部品等も入手できることがわかりました。そういったものも利用しつつ、今では先ほどのボートに加え、この 30 年間で作ったほぼすべての模型を動かせる状態に復活させることができました。（写真 1）

模型の部品以外でも、かつては欲しくても手の届かなかった物の多くが中古ではありますが安価で入手できることがあります。私はオーディオにも少し凝った時期があったのですが、大学を卒業したばかりで当時は買えなかったセパレートステレオアンプをオークションでその頃の約 4 分の 1 の価格で手に入れることができました。幸い状態も良く、20 年以上前のレコードを探し出して聴いてみましたが、その音もさることながらデザイ



写真 1



ンが好きで気に入っており、よい買い物できた  
と思っています。(写真 2) 当時すごく欲し  
かったのでのどのつかえがとれた気分です。

その他役立ったものとして「ノートパソコンの  
だめになったニッカドを中身だけ入れ替えてく  
れるサービス」も「商品」として出品されてお  
り、「落札」して利用したところ買い換えるより  
格安で新品状態となりました。

ネットオークションではたまにトラブルもある  
ようですから余り高価なものはどうかと思  
いますが、上手に利用すれば思わぬ拾いもの  
を見つかることもあります。今では手に入  
らないと思っ  
てあきらめている物や、かつて欲しかった  
が手に入  
れられな  
かったもの  
がおあり  
でしたら  
一度その  
分野のオ  
ークショ  
ンをのぞ  
いてみら  
れてはい  
かががで  
しょう。私  
の 2 年間  
の経験で  
は、しば  
らく時  
間はかか  
ってもお  
そらくほ  
とんど  
のものが  
見つか



写真 2

ると思います。あるところにはあるものです。

最後に、ラジコンに興味のある先生はぜひご一  
緒しましょう。私は船・車・ヘリコプター（飛行  
機はだめ）何でも OK です！

## 初 螢

徳医句会

恋の歌さらりと二首を星祭 浅海日出子

涼風のひと吹き稚の喜べる

中也館阜月の光さす遺稿 村田 周陽

亡き父母が石楠花の中遠ざかる

雷神のテレビの中で怒りけり 武田 子龍

母に似し娘の襟元に初螢

遠き地の桜桃チェリーを入れて酒造る 姫野 豊山

梅漬けて亡妻ツマと過ごした日を偲び

## 阿蘇南郷谷に咲く一本櫻

下関 織田 登

南阿蘇の白水（はくすい）村に一心行（いっしんぎょう）の大櫻があることは前から知ってはいたが、ほかの櫻見物が優先してしまって、つい延び延びになっていた。筆者の知人が昨年ツアーで行って見たら結構見応えあり、とのことで、今年の 4 月はじめ白水村の櫻情報テレホンサービスに問い合わせたら、4 月 6 日頃が天気も良さそうで櫻も見頃とのことででかけることにした。

今年 4 月 6 日（火）、下関発午前 8 時 38 分、寝台特急ハヤブサ、さくらの併結列車に乗車。この下り特急は下松駅から B 寝台は立席特急券で乗車ができるので九州方面への旅にはとても都合がいい。何せ空席が多くて寝ころんで旅ができるんだから。

予想通り天気は上々、窓外のあちこちにソメイヨシノの満開風景が見られる。午前 10 時 19 分鳥栖駅着。ここで長崎行きの特急さくらとは併結をとかれ熊本行きの特急ハヤブサは熊本へ向かうことになる。

けっこう窓外にはソメイヨシノが散見される。午前 11 時 40 分終点熊本駅に着く、下車。ホームを機関車の方に向かっておくとホームの左側に豊肥本線の発車ホームがある（0A、0B 番線）。（新山口駅の在来線山陽本線の上りホームを前の方に進むと左側に山口線の発車ホームがあるが、あれとまったく同じ）。

熊本発（豊肥本線）午前 11 時 54 分肥後大津行き普通列車に乗り換える。この列車、鹿児島本線の列車と別れ、熊本市街地の南を大きく迂回しながら平成、南熊本、新水前寺を過ぎ熊本市交通局の市内電車と立体交差して水前寺に到着する。

史跡、名勝として名高い水前寺公園の下車駅で

ある。東海学園前から第 2 白川橋梁を渡ると竜田口。次の武蔵塚は剣豪宮本武蔵ゆかりの駅。熊本平野を緩い上り勾配で段差を進むと、12 時 29 分肥後大津に着く、下車。

ホーム反対側の線に停まっている列車に乗り換え、12 時 32 分発車。ここから最急 25% の勾配が続く瀬田に着く。瀬田からはさらに 33.3% の急勾配が 2 km 以上続き、阿蘇外輪山の入口の原生林が車窓に広がって、折り返し線と合流した立野に 12 時 52 分到着する。海拔 277 米。

立野は 33% の急勾配の途中にもうけられた 3 段式のスイッチバック駅、下車。（注：豊肥本線をそのまま赤水へ向かうとすると、いったん折り返し線に入り、再び急勾配で外輪山の中腹を上り、火口原に出ると赤水駅である。海拔ほぼ 470 米。すなわち立野では線路の形が逆 Z 型になっている。）ここから第 3 セクターの南阿蘇鉄道に乗り換える。短いトンネルを出ると高さ 64.8 米のアーチ橋（第一白川橋梁）で深い白川の谷を渡る。眼下に見える溪谷美はすばらしい。

ついで全長 903 米の戸下トンネルに突入、抜け出すと阿蘇外輪山も一望でき車窓からの眺めは抜群。長陽、加勢、阿蘇下田城ふれあい温泉、南阿蘇水の生まれる里白水高原、中松、阿蘇白川、見晴台、高森と区間 17.7 km の間に 9 駅、所要時間 31 分で終点高森に着く。

一心行の櫻を見るには中松で下車、徒歩 10 分で行けるのだが、実は九十九曲がりと呼ばれる高森峠一帯には 6 千本といわれるソメイヨシノがただいま見事だとのことで高森まで来たわけ。車を頼んで行ってみた。

高低差のある峠一帯の櫻の景観、快晴の日のあ

の鋸歯状の稜線を見せる根子岳（1408 米）のすばらしい眺望。やってきて良かった。

続いて白水村にある今日お目当ての一心行の大櫻見学に向かうことにする。熊本県阿蘇郡白水村大字中松西古閑原 3240 番地、ここがその一本櫻の所在地である。

堂々たる貫禄、朝から車窓外、先ほどの高森峠一帯、と数々のソメイヨシノを見たので多分に見劣りがするのではと思っていたが、やはり寄せ付けられないだけの威厳がある。

樹齢 400 余年、品種、山櫻（平成 15 年 DNA 鑑定による）。枝張、東西 21.3 米、南北 26.0 米。樹高 14 米。幹囲 7.35 米。周辺には彩りを添えるかのごとく菜の花が一面に満開。阿蘇五岳を借景に、阿蘇南郷谷にそびえ咲く一本櫻。今日も多くの観櫻客を引き寄せている。

この櫻の大樹は中村（峰）伯耆守惟冬が眠る墓地内の菩薩樹になっている。伯耆守惟冬は天正年間、当時の峰村（現白水村中松）に築城された鶴翼城（峰城）の城主であったとき、阿蘇家の命を受け矢崎城（現熊本県宇土郡三角町）城代を兼務することになった。

しかし、天正 8 年（1580）に薩摩の島津氏との戦いで矢崎城で戦火に散った。ゆえに室（妻）と 4 歳になった嫡男、惟尚（後に峰伯耆守惟尚）は少数の家臣と密かに故郷峰村に戻り、その地名である峰伯耆守を名のった。櫻はその時期に植えられたといわれ、戦いに散った城主惟冬と家臣たちの御霊を弔うため一心に行をおさめたということから「一心行」の名がついたとされている。

その後、嘉永 2 年（1849）の山津波、昭和 28 年（1953）の大水害などの天変地異にも生き続け、



一心行の大櫻

400 余年経った現在も見事な花を咲かせている。昭和初期の落雷により、幹が 6 本に裂けたため、今の樹形になったという。

現在、惟冬公の直系の子孫により墓地とともにこの菩提樹は守られている。話は変わるが、この白水村は名水の生まれる里、よろしく名水の水源があり、環境省の名水百選に選定されている。

東西 18 km、南北 48 km、世界第一級のカルデラの中に咲く一心行の大櫻、立地条件は満点。これから多くの観櫻客を引きつけることであろう。思い出になる春の一日であった。

資料・文献省略。



## 山 若 葉

山口 国近 満男

### ○春夏秋冬

それは暑い夏のことであった。息子から、大学からの推薦でアメリカ留学が決定したので、是非とも留学に協力してほしい旨の申し出であった。私にとってもそれは大きな課題であり、それ相応の一大決心が必要であった。ちょうどその頃、県は永年にわたって準備して立案・計画した一大プロジェクトのきらら博がオープンしたばかりであった。私にとって県庁には、県知事より県職員診療所の嘱託医と産業医の任命をいただき、午後の一時<sup>トキ</sup>ではあるが、36 年間一日の欠勤もなく勤務できたのは、多くの方々のご理解とご協力の賜であった。その厚情に報いるには、きらら博の成功に向けて邁進する必要があった。県医師会の全面支援の方針に賛同し、県医師会奉賛金への賛助とともに、各部門のボランティア活動に参加し、強調と協力に努力していった。早速内輪だけの小宴であるが、“留学激励会”をホテルに予約した。内輪の縁戚の中には倉敷・岡山からの来客もあり、きらら博とセットにして激励会を盛り上げていただいた。

環境と習慣の異なる未知の外国での生活・言葉の壁・プロフェサーの研究内容とその指示・日米の医学各部門の特質等の解決には自分で積極的に研究チームにとけ込む以外に道はないので、本人の若さと努力を信じることにした。当時の第二内科の研究グループは、臨床冠動脈研究班、冠循環・虚血性心不全・遺伝子治療研究班、動脈硬化班、心筋  $\text{Ca}^{2+}$  動態研究班、心不全血管特性研究班、負荷・ $\text{R}_1$ ・微小電位班、呼吸器班、心エコー班、免疫班、不整脈班、腎臓グループ班等各研究部門ごとにリーダーを中心にして研究開発に懸命の努力を積み重ねていた。渡米後は心機一転毎日毎

日を大切に慎重に研究に没頭していったようであった。渡米后平和に毎日を送っていると、突如としてニュー



ヨークの同時多発テロが発生し、引き続き米国内に炭疽菌事件が多発し、治安の不安がクローズアップされてきた。その上、アフガニスタンへ中東戦争が勃発した。世界大戦で大不況へ突入し、研究も大変であったと思っている。治安の不安なこのような時期に、家族が離れて生活すると、いっそう家族の絆を強く感じる。一緒に暮らした昔日を懐かしく思い出す。特に寝付かない幼少の頃に夜中におんぶしてあやしたとき、家族の温かみをしみじみと味わったものである。（02 年 3 月記）

### ○都の青春

五月の初夏のある日、日進月歩の医学留学の息子夫妻を案じながら書斎を整理していると、私の若い独身時代の写真が出てきた。当時第二内科の研修医であったが、それは東京での国内留学時代の一昔前の懐かしいものであった。当時憧れの東京結核研究所は、都内の池袋より西武線で西北の郊外である。近隣にはサナトリウムも多くあり、中でも研究所と附属病院及び併設の B・C・G 研究所は日本屈指のもので権威のある国内最高の研究所であった。当時は全国 TB 病棟は満床で、撲滅は社会のもっとも価値ある優先課題であった。

研究所は威風堂々として貫禄があった。研修は診療と研究と講義の 3 部門で構成され、診療は外来・病棟・放射線科のローテーションであった。研究は第二内科の小沢教授よりテーマを指示されており、胸部 X 線画像診断の病理学的検索の宿題報告があり、その上 B・C・G の別テーマもいただいていた。講義は、東大系の講師が多く、当時の医療の最先端の内容で化学療法をはじめ人工気胸・気腹・肺成形・肺切等の新分野の開拓のものであった。診療で重要なことは、ディスカッションが医学の進歩に必要な条件であることを強調されており、放射線科では勉強しないものは帰れと部長の厳しい姿勢があった。一方、病理研究部では、病理解剖の所見とレントゲン所見の比較検討の毎日であったが、病理解剖だけでなく当時の医学の最先端の生化学を中心に、光電比色計、濾紙電気泳動法も研究されており、部長の厳しい指導も人生哲学を学ぶところが多く、実りのある有意義な日々であった。夜はミーティング室で、それぞれが研究データを整理したり読書に熱心な人が多かった。中には片隅で囲碁・麻雀の人もあった。日曜日は天気が良ければ、仲間と研究所の周辺のジョギング・ウォーキング、時にはテニスで汗を流し、友情の輪が広がり楽しい青春時代を過ごせたのはありがたいことであった。まだ TV のない時代で夜空の星を眺めて過ぎ去った研修の日々を反省していると、ふと故郷の大学の恩師、第二内科の先輩、友人、家族を懐かしんでいた。故郷は遠くにありてしみじみと思うものであった。

研修医は優秀な努力家が多かった。卒業大学も異なる人々との交流に不安もあったが、次第に友人も出来、毎日の診療のあれこれを話し合い、指導もいただき有益な日々を送ることが出来た。多くの方々との暖かい交流で人生哲学を学び得たことを感謝している。離任の時は、東大キャンパスをはじめ周辺の大都会の進んだ文化や生活の见闻を広げることが出来、まだ駆け出しの若い時代であったが、それなりに診療と人生に新鮮な希望に感動を覚えたのは有意義であった、都での青春を深謝しながら…。

(02 年 5 月記)

フルサト  
都にも故郷に似し山若葉

満 男



#### 付記

この話（春夏秋冬）は、3 年前の平成 13 年、息子夫妻が渡米する前後を中心とした私の視点でのもので、現在、平成 16 年 1 月末には十分な行き届いた勉学と研究を終えて無事に帰国し、息子は山口大学第二内科に復帰し、妻は山口赤十字病院内科に勤務しております。両名とも、多くの方々の温かいご指導・ご協力をいただいておりますことに深謝しております。なお、都の青春は私のずっと一昔前の話で、まだ駆け出しの時代のものですが、日進月歩の医学の大切な原点を東京で学んだ物語です。

時代の移り変わりとともに医学は新しい分野とメカの導入に積極的であった。レントゲン・エコーは勿論のこと、CT・MRI・MRA をはじめ各種の内視鏡・人工臓器・ファイバー・カテーテル・ペースメーカー・ステント等急速な発展をしてきた。医学の進展は研究と努力の賜であり、社会に一大貢献をしているが、その反面、全国各地で医療事故も発生している現状を謙虚に反省し、日々の診療に慎重に対処することが大切と思っている。生命の安全を祈りつつ…。



## ノーベル賞とその背景

徳山 姫野 英雄

私は白夜の国、森と湖に育ったアルフレッド、ノーベルに深い敬意と北欧の風物に強い憧れを抱いていた。思いがけずスウェーデン福祉研究所主催で 2003 年 6 月 1 日より 8 日間の研修旅行案内があり参加した。彼の地の風物と老人福祉の充実については報告したので、今回ノーベル賞の設立と経緯について知り得たことを報告する。

ノーベルは 1895 年 11 月 27 日遺言状に署名した。彼の貴重な体験の中で出会った人々、生活した環境を述べているが、発明や事業で築いた莫大な財産をだれが相続すべきか、子供がいないこともあって、資産の一部は親戚や関係者に与えたが、大部分は他の目的に使用しようと考えていた。これを基金の形で管理し、利息を優れた考えを持った人々に賞として与え、彼らを支援するために使用しようと考えたのであった。

ノーベルは 9 歳のとき、家族とともにストックホルムからサント・ペテルブルクに移住、17 歳の時ヨーロッパと北アメリカで勉学、5 か国語を操り、スコットランド、パリ、イタリア、スウェーデンに夫々家を持ち、移動が多かった。その頃ヨーロッパでは鉄道建設により、爆薬に対する需要は大きく伸びた。1873 年 14 か国に 16 か所のダイナマイト工場を持ち、1896 年死亡時には 20 か国、93 か所の工場があった。爆弾の生産と輸送の安全には各国とも厳しい法律があったことにより調整するために、代理人も秘書も置かず、人生のかなりの時間を汽車と船上で過ごした。

彼は世界市民であり、さまざまな国の文化と言語に精通していた。彼の国際的人生が、ノーベル賞が国籍に関係なく授与されるという共通するものとなった。また受賞対象に発明・発見・改良を選んでいるところに発明者として、ノーベルの足跡を見る

ことができる。また 1,500 冊以上の蔵書を持ち、文学に熱中し、もっとも優れた作品の創作に賞を与えるとなった。

また平和活動にも大きな関心を示した。彼の遺言書にはどの機関が受賞者を選出すべきかを指定している。物理学賞と化学賞はスウェーデン王立科学アカデミー、生理学賞、医学賞はカロリンスカ研究所、文学賞はスウェーデン・アカデミー、平和賞はノルウェー国会としてあった。

さて、ノーベルの遺言を実現するための壮大で困難な作業は、各所に散らばっていたノーベルの財産をスウェーデンに移すことであった。ノーベルの年若い助手スルーマンが見事にこの難事業を解決した。

さて受賞者の決定はノーベル委員会であるが、各委員会は 3 人から 5 人の委員で構成され、各受賞機関から選出される。委員会の基本的な任務は推薦状の検討である。ノーベル賞の授与機関規約には受賞者候補の推薦権を持つ人選について、条件が示され、過去の受賞者全員も含まれている。9 月各委員会が推薦依頼状を発送、翌年 1 月 31 日締め切り、第 1 回目の審査後、候補者を絞



ロイヤルディナー  
(市庁舎)



り、評価作業が行われる。委員会は評価の助言を外部の専門家に求めることができる。10 月には受賞者が決定され、各分野につき、最高 3 名まで受賞することができる。12 月 10 日、ノーベルの命日が受賞の日と決定され、平和賞の授賞式はノルウェー、オスロで行われ、その他の賞はストックホルムで授与され、スウェーデン国王から親しく手渡される。

私は会場となる市庁舎黄金の間に入り、附属レストランでロイヤルディナーをいただいた。世界の片隅、小国に育った、偉大な人物を偲んだ。日本人での受賞者は湯川秀樹（物理）、朝永振一郎（物理）、川端康成（文学）、佐藤栄作（平和）、江崎玲於奈（物理）、福井謙一（化学）、利根川進（生理）、大江健三郎



ノーベル書籍コーナー  
（ストックホルム）

（文学）、白川英樹（化学）、野依良治（化学）、田中耕一（化学）、小柴昌俊（物理）諸氏であった。



高本 公 書



## あかざ と あかざ科食物植物

岩国 藤本 典男

第 2 次世界大戦は昭和 16 年に始まった。その頃私は 7 歳であった。食物がなく、甘いものなど滅多に子供の口に入らなかった。私の家族はあまり野菜も作らず、畑には雑草が繁っていた。私の記憶にある、ある年は、から梅雨で畑に湿気がなく、荒れ地のようなところにアカザがはびこっていた。祖母が摘んできて、ゆでて、食事に出した。それが 3 ～ 4 回続いたように思う。外で遊んでいるうちに、顔や上肢に赤いブツブツと火ぶくれがでて、ひどく痒かった。10 日くらい、続いたように思う。70 歳の今日思い出せるのである。今、考えると光線過敏性の疾患である。光線過敏を起こす物質は植物に案外多い。白斑治療剤に使われるソラーレンも植物由来である。この物質は、紀元前 1400 年頃、インドでソラリア科の植物の種子を食べ日光に当たるという方法で、白斑の治療に試みられた。近年フランスの社交会で、ベルロツク皮膚炎というものが、流行ったが、胸や首に付ける香水の中にメトキシソラーレンが入っているために起こった色素沈着である。…日本では、この物質の含まれる草木は知られてないように思うが、ドクダミやオトギリソウを煎じて繰り返し飲むと日光に敏感になる。セリ科の植物も、この傾向がある。…およそ、木や植物は自分を虫やバイ菌などから守るために、樹脂、色素など作っている。総じていえば防腐剤である。

木でいうと、心材の外側に辺材というものがあり、ここに柔細胞があって、原料のデンプンやブドウ糖から、脂肪酸、樹脂、フラボノイドなどを作る。フラボノイドは染料のもととなる。エルリツヒが合成したプロントジル（サルファ剤の原形）も染料から作ったもので、尿中赤くなり、染料の性質を持っているが、初めての抗菌薬となった。この形のものは、光線で変化する性質がある。誘導体である降圧剤や糖尿病薬の一部にこの性質を持つものがあることは一般によく知られている。…

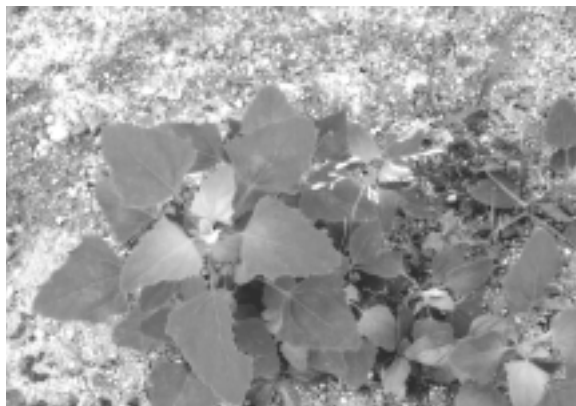
アカザというのはシロザの変種で、後者を記載したのはシーボルト、アカザは牧野富太郎が名付けたもので、この方が日本には多い。1m くらいに成長するが、15 cm くらいの高さから上から見ると、真ん中が赤みがかった模様が現れる。これが名前の由来と考える。世界的にはアカザ科のものは 1,400 種くらいあり、日本では 16 種という。一定の植物学上の共通点持っている。…

この科のもので、よく知られたものはシュガービート、ホーレン草であろう。それにソバ（タデ科）のように半分穀物として南米で作られているキノア（quinoa）がある。古代インカではキノアは主要な、神聖な穀物として作られた。今も主食とされている。これは dough crop ではな



1. ソバ（タデ科）  
2. キノア（アカザ科）ホウレン草の花に似ている。

いので、発酵したパンにはならない。グルテンが入っていないのである。したがって、パンにしようと思えば、西洋人の発想だが、1 割ぐらいの小麦粉を加える。…砂糖の得られる植物は熱帯では多くはサトウキビであるが、温帯の涼しい気候ではシュガービート（砂糖ダイコンともいうが、ダイコンとは違う）。ビートの原産は西アジア、ヨーロッパの海岸地方で、サクロース 5～6% の植物が園芸種 (cultivar) となって、100 年で 18% になっている。しかし、ポーランドやロシアではショ糖 10% くらいまでの野菜としてボルシチ (Borsch) スープの材料として利用されている。一部で葉も野菜として利用され、全体として家畜の飼料にもなっている。私は食べ物、特に食物植物に興味を持っている。小さいときの、貧しい食事のせいかな？ 日本には食物植物の本がない。英国では 69 年に出版され、96 年に改訂版が出ている。オックスフォード大学出版の



アカザ、中心部が赤く、ひとつの模様を作っている。同じような命名はホトケノザにも見られる。

The New Oxford Book of Food Plants である。挿絵のカラーグラフが美しく、楽しめる。日本のものとしては柿、琵琶、大根 (Loopi)、春菊、竹の子などがのっている。

~~~~~

ホーチミン・ルートと枯葉作戦

下松 岩本 功

「鳥インフルエンザはだいじょうぶ？」の声に送られ 3 月にベトナムに行って来ました。

昨年と同じ頃には、イラク戦争勃発や SARS 騒動やら空港はものものしい厳戒態勢でしたが、今回は空港でのサーモグラフィーによる発熱チェックぐらいで比較的にスムーズでした。ハノイでフレンドシップ病院の Vinh 医師と合流してフエに向かいました。訪問目的はベトナム戦争で大量の枯葉剤が散布された Namdong(ナムドン)地区の現場を訪ね、これまで寄付してきたベトナム製車椅子がどのように活用されているかを確かめたり、新しく数台の車椅子を手渡すことでした。

ベトナム戦争時には貧しい少数民族（年収は日本円 2 万円程度）の人々が生活しているベトナム中部のフエ省ナムドン地区には、1 グラムで 50Kg の人間 1 万人を殺すことができる猛毒ダイ

オキシンを主成分とする AO（エージェントオレンジ）が 1962 年から 1971 年までに 906,765 ガロン（1 ガロン約 4L）が近くの米軍 Aso 基地から発進した C-123 プロバイダー機より容赦なく、繰り返し散布され、数日であたり一面が白っぽい枯木になったと同行した Nhan 医師は力を込めて話してくれました。彼はフエ医科大学の助教授で遺伝学を専門とし、枯葉剤が直接 DNA に影響を与えているとの仮説を提唱しています。また、自らは OG CDC (Office of Genetic Counseling and Disabled Children) という NGO を組織して枯葉剤被害者や被害者 2 世のための支援をしています。我が NGO・IMAYA（国際医療協力山口の会）は 3 年前からこの OG CDC に協力をしてきました。

フエ市で手配したドライバー付きレンタカー

はアップダウンの道でエンストを繰り返しながら
ラオスとの国境となるチュンソン山脈方向にのろ
のろと進みました。途中の森林は戦後の植林で生
き返りつつあるようでしたが、当時は鬱蒼とした
森林の小道は昼なお暗く、ここを北ベトナム正規
軍は自転車を主な輸送手段として物資とともにサ
イゴンを目指して南下したのでしょう。この道は
総延長 2 万 Km にも及ぶホーチミン・ルートの
支線だったようです。この物資補給路を断ち切る
ためや食料生産ができないように田畑を荒地とし
てしまうというアメリカの「枯葉作戦」は、人体
への遺伝的影響などは無視されたのでしょうか。
細長いベトナムが南北に分断されていた頃のフエ
省は、南下の拠点でもあり徹底的に枯葉剤が散布
されたといえます。現地に着くまでの車中では、
ずっと私の頭の中は広島への原爆投下のイメージ
と重なったままでした。

昨年 10 月に IMAYA10 周年記念として Nhan
医師と Vinh 医師の招待講演会を山口、下松、広
島で行いましたが、広島での反応が一番大きかった
と思われました。広島原爆資料館や放射能影響
研究所などの訪問はとても有意義だったと感謝さ
れました。

2001 年にフエ医科大が行った調査では、枯
葉剤によるものと推察される Namdong 地区の
15 歳未満の子供 8,970 名での障害者は 331 名
(3.69%) であり、その上位疾患は陰嚢ヘルニア、
知的障害、聾啞、斜視、てんかん、肢麻痺、口
唇・口蓋裂、そけいヘルニア、ダウン症そして脳
性麻痺です。ベトナム全土では、いまなお枯葉剤
による後遺症で 200 万人が苦しみ、戦時の不発
弾や地雷による事故が今でも報じられているよう
です。

微力ながらこれからも枯葉剤障害者の人々の
ために車椅子ばかりでなく、フエ市にある盲学校
や知的障害施設の子供たちの特殊教育支援を専門
家の協力を得ながら行うことを模索したいと思い
ます。毎日のように世界のどこかで、民族対立や
宗教対立による殺し合いが行われており、子供た
ちやその子孫が枯葉剤のような後遺症に会わない
平和な世界を実現するためにもシーアイランドサ
ミット議長総括の実践に期待したいものです。



広島放影研にて
医師による説明
Dr.Nhan(右)
Dr.Vinh(左)



Namdong ヘルスセンターにて
特殊車椅子寄贈



フエ市盲学校にて

まくら（真暗）の草子

下関 塩見 祐一

ゲニ清少納言は観察力と感性が鋭い才女だったのだらう、枕草子・28 段でニクキモノ、アージヤ・コージャといろいろ書いている。

単細胞の僕にとって、それはタダーつ。20 歳より 31 歳まで合計 10 回、ほとんど毎年 7 月になると挑戦そして 9 月に敗退という連続で、遂に断念した涙・涙の公認会計士（CPA）2 次試験。ホント「大事な青春を返せ!」と叫びたいホド。

○ホップの頃（18 歳～19 歳）

CPA2 次試験に必要なのは 7 科目。うち会計 4 科は簿記に始まって財務諸表・原価計算・監査論。普通高校卒の僕は、簿記の前提であるソロバン（当時は電卓持ち込み不可）ができなかったので、習いに行くことにした。

そこはイスも小さな保育園。もちろん僕を除いて夕方コースの小学校低学年の子供ばかり。しばらくして、見取り算のテスト日。試験用紙が配られた途端、自信がなかった僕はすぐパチ（リ）パチ（リ）。何か、視線を感じた。顔を上げると、生徒全員がこちらを見ている。その中のハッキリした子が「オジサン（肥満体はソウ見える?）、ズルイ!」

先生が取りなしてくれたものの、今思い出しても恥ずかしい。大げさかもしれないが、僕はその子のおかげで、西洋での「ノーブレス・オブリージュ」とわが国の「武士道」を身をもって学んだと思う。

○ステップの頃（20 歳～24 歳）

当時ヨク僕が口ずさんでいた歌は、水前寺清子や畠山みどりの根性演歌。つまり受験勉強一筋。模擬試験の成績から言っても、合格寸前まで来ていたと思う。

一番悔しかったのは 21 歳の夏。初日の商法・

経済学・経営学は OK! 各 2 問中 1 問はバッチリ。もう 1 問も最低限 6 割キープ。運命の次の日、簿記論・第 1 問目。史上初、戸田義郎試験委員作の推定簿記（今だから言う、コンナ作問は邪道だヨ）。頭に血がパアアッと上って、KO! 「もお～うイヤッ」と、福岡の試験会場をアトにした。

電車の乗り継ぎで門司駅に降りた。線路わきのマッ黄色のカンナの花がまぶしかった。思わず、涙がジトアッからポロポロ。家にたどり着くなり、母ノタマワク「まだ、明日もあるやないの」。バカ言わんといて、試験はトオルことに意義があるのです。

○ドボンの頃（25 歳～31 歳）

普通より遅く 22 歳で入学した医学部も、医進から専門に行くと忙しくなる。しかし、毎年夏が来る度、サザンオールスターズが歌う「胸サ～ワギの腰ツ～キ」になる。だから生化学を落としての再試験と国家試験があった年の 2 回を除き、意義なき参加をした。ただマンネリ。受験準備も「強いて勉める」から「趣きを味わう」ものとなった。

例を挙げる。簿記論で「簿記」の謂われが帳簿記入の略でなく、ボッキ（Book Keeping）なんだと知ったのもこのころ。すると、財務諸表論における企業会計一般原則の第二「正規（セイキ）の簿記（ボッキ）の原則」が生きる!?

やがて郷里の下関 K 病院へ就職。そこでの 2 年目に、最後の聖戦を挑むも念願かなわず、さすがのシツコイ僕も諦めた。そして、その冬・大雪の朝、次の就職先・沖縄 M 病院に旅立った。このニクキ 14 年の巖窟から脱出するためでもあった。

では、僕流マイ・ウェイの一句にて。

「かなしうて やがておもしろい 受験道」

オレ流・珍説オリンピック物語

徳山 望月 一徳

今年は、閏年ですからオリンピックの年です。シドニーからもう 4 年も経ったのかと、月日の早いのにあきれます。今年は開催地がオリンピック発祥の地ギリシャですから、ますます世界中の関心が集まることでしょう。既に、聖火は日本にもやって来ました。

スポーツの世界では、世界選手権と名の付いた大会で優勝すれば名実共に世界一に違いないのに、どう言うわけか選手も観衆もオリンピックの金メダルの方をありがたがります。

柔ちゃんが、“最低でも金メダル・・・”と執念を燃やしたのは、そのよい例でしょう。それだけにオリンピックには、世界中の人々を引きつける魔力がひそんでいるように思います。

私(昭 13 生)もその魔力に惹かれた一人です。今日まで何回もオリンピック競技をラジオや TV で観戦しました。皆さんと同じように、日本の選手を応援しました。親戚でもないのに、日本の選手の金メダルに興奮したものです。

アテネでは、金メダルを狙って鎬をけずる世界中の有能な選手や日本の選手の活躍が楽しみですが、それはさて置き過去のオリンピックを振り返って見るのも一興かと思います。さあ皆さんもご一緒に、いかがですか?!

先の大戦後、日本が参加したオリンピックの開催地を旧い順に挙げると、最初が昭和 27 年(’52・第 15 回)のヘルシンキです。石井庄八選手がレスリングで金メダルを取りました。その影響があったのか、その後我が高校(広島)でもレスリングが盛んになり、強くなったら国体に行けると誘われて、入部。初日の練習で肘、膝をすりむいて因幡の白兔状態となり入浴で、沁みるしみ

る。3 日で退部しました。レスリングは見るもので、やるものではありません。

当時、水泳の古橋広之進選手は世界記録を連発しており、金メダルを取って日の丸の旗を揚げてほしい、と国民の期待を担ってこの大会に出場しましたが、結果は見るも無残な惨敗となりました。金メダルは取れませんでした。彼の世界記録が敗戦後の日本人に勇気と希望を与えてくれた功績は消えることはありません。それが証拠に、後に日本水泳連盟の会長を長く務め、ニュース番組で彼の老いた顔を拝見しています。

陸上では、ザトベック(チェコ)が 5 千 m、1 万 m、マラソンの三種目に金メダルを取り、五輪史上空前絶後の長距離三冠の偉業を達成。顔をゆがめ胸を掻きむしり、今にも倒れそうになりながら走る姿を“人間機関車ザトベック”と呼びました。後に、阪神のエース村山實選手の全身を駆使する力投振りに、“ザトベック投法”の名が残りました。どちらもひた向きな、というところが共通点です。

第 16 回は昭和 31 年(’56)メルボルン大会です。大学入学の年で、性能の悪い箱型のラジオで耳を澄まして聞きました。音声が打ち寄せる波のように高く低く聞こえてくるのは、電波が遥か南半球から大海原を越えて来るからだ、という説明になるほどと納得したものです。体操の小野喬選手が大活躍で、4 つの金メダルを取りました。その後 20 年間、日本の男子体操は体操王国の名を欲しいままにしました。ついでながら、彼の伴侶の清子氏は同じく体操の女子選手で活躍し、現在は比例代表の参院議員ながら、なんと国家公安委員長をお勤めです。こんなところにも金メダルのご威光が及んでいます。恐れ入ります。

第 17 回は昭和 35 年（'60）ローマ大会です。この大会の最高の金メダリストは、なんと言っても“裸足の英雄”エチオピアのアベベ・ビキラ選手です。日本は、戦後 15 年目で決して裕福とまでは言えませんでした。靴は履いておりましたヨ。だから、42,195km を裸足で走った奴がいる、と随分感心したものです。日本選手では水泳の山中毅選手（懐かしい名前です）が、400m で銀メダルです。

第 18 回は昭和 39 年（'64）東京大会です。このあたりから記憶が鮮明になります。まず、三波春夫の唄う“東京音頭”から始まりました。さあ、皆さん一緒に唄いましょう。♪コンニチワ、コンニチワ！世界の国から・・・♪オリンピックの顔とかお、それドドンとドドンと顔とかお・・・♪懐かしいですネ。

この大会で悔しいことが、2 つあります。一つは、柔道で神永選手が大男のアントン・ヘイシンク（オランダ）に負けたこと。しかも袈裟固めです。この寝技は、初心者が真っ先に覚える押さえ込みで、極めて簡単な技です。なぜ猪熊選手（背負いが特技）を用いなかったのか、悔やまれます（その訳は柔道の詳しい人に聞いてください）。

二つ目は、マラソンの円谷選手が大観衆の待ち受ける国立競技場に 2 位で入ってきたのに、あと一周のところでヒートリー選手（英）に抜かれて、銅メダルになりました。この時、そのまま銀メダルになっておればその後の不幸はなかったらと思います。抜かれたばかりに、4 年後にリベンジだ！と声なき声に押され、その上自衛隊の幹部もはっぱをかけたのではないのでしょうか？

「お父上様、母上様、三日とろろ、おいしゅうございました。・・・幸吉はもうすっかり疲れきってしまって走れません」と三島由紀夫も激賞する遺書を残して自殺しました。この頃までは、自分のためではなくお国のために出場する選手がいたという証拠です。

結果はご存知のようにアベベの 2 連勝です。今回は、シューズを履いておりました。一回勝つのも大変なのに 2 連勝だ、なんて！その後、現在に至るまで、長距離はエチオピアのお家芸です。

嬉しい方では、鬼の大松監督率いる女子バレー

の優勝です。「金メダルポイントです！」と絶叫するアナウンサーのせいで、なかなか最後のポイントが取れないと、苦情が出るほどやきもきいたしました。その後、彼女達は、“東洋の魔女”と呼ばれ、大松監督は国会議員に選ばれました。金メダルのご威光です。恐れ入ります。

第 19 回は昭和 43 年（'68）メキシコです。女子体操でチャスラフスカ（チェコ）登場。難度の高い技“ウルトラ C”を見せてくれました。この頃の女子体操選手は成人女性らしくふっくら、ぽっちゃりと魅力的でした。日本男子は、総合優勝し個人は加藤沢男選手が金メダル。

マラソンは君原選手が銀メダルを獲得。彼は、毎朝会社への出勤に走っていった、と聞きました。世界で一流のアスリートになるには、日頃の精進が大事という教訓です。恐れ入ります。

第 20 回は昭和 47 年（'72）ミュンヘン大会です。真っ先に思い浮かぶのは、アラブゲリラのテロ事件です。強攻策で人質のイスラエル選手全員が死亡しました。後にモサド（イスラエルの秘密警察）が、報復のため犯人グループの一人ひとりをしらみつぶしに暗殺した事実は、ドキュメント本で読みました。当時の平和日本では、考えが及びもつかない政治の裏面です。

水泳では田口信教選手が 100m 平泳ぎ、青木まゆみ選手が 100m バタフライで金メダル。これは日本女子では前畑秀子選手以来、36 年振りの快挙でした。一人で 7 つの金メダルは、マーク・スピッツ（米）です。すごい！

男子バレーは、松平監督率いる日本が金メダルを取りました。このときがピークで、その後は、ジリ貧です。正直なもので、応援もしとりまへん！

第 21 回は、昭和 51 年（'76）モントリオール大会です。女子体操で“白い妖精”コマネチ（ルーマニア）が、10 点満点を連発し観衆を沸かせました。この頃から、女子の体操選手は矮小化、少女化、演技も曲芸化しました。ちっとも面白くありません！日本男子体操が、5 連覇。

山田監督率いる女子バレーが久々の復活で、金メダルを獲得しました。しかし、一回目（東京）

の時のように鮮明な記憶がありません。

第 22 回は、昭和 55 年（'80）モスクワ大会です。ソ連のアフガン侵攻に抗議して、欧米諸国にしたがって、不参加になりました。スポーツ選手には匂がありますから、この時金メダルの可能性のあった選手（柔道・山下選手、マラソン・瀬古選手）は気の毒でした。

第 23 回は、昭和 59 年（'84）ロサンゼルス大会です。柔道で山下、斎藤選手が念願の金メダルを獲得。東京で失ってから四半世紀ぶりの奪取でした。

特に、山下選手は肉離れに痛む足を引きずりながら決勝にのぞみ、正々堂々と戦う対戦相手ラシュワン（エジプト）を寝技で仕留めました。試合後の一礼の後、両手を高々と挙げて、感激の涙を流しました。表彰台にあがる時、足を引きずる山下選手に手を貸したラシュワン選手は、銀メダルのほかにフェアプレイ賞を獲得しました。

陸上では、カール・ルイス（米）の登場で 4 つの金メダルです。

第 24 回は、昭和 63 年（'88）ソウル大会です。陸上の花、100m でベン・ジョンソン（カナダ）が噂にたがわず、10 秒を切る好記録で一位でゴールを駆け抜けました。走り終わってカール・ルイスが、彼に祝福の挨拶をしているのが、印象的でした。ところが、薬物テストが陽性で失格となり、記録が抹消されました。確かに、スタート前の彼は目がきらきらとひかり、表情も戦闘的に見えました。薬物の影響は素人目にも明らかでした。

女子陸上では、同じく 100m でフローレンス・ジョイナー（米）が、抜群の強さで金メダルを獲得、ジョイナー旋風を巻き起こした感がありました。その後日本の脳天気な TV 番組に出演しているのを見たことがあります。爪を気味が悪いほど長く伸ばしておりました。こんな黒人の美意識はなんとも理解できません。その内、彼女はころっと、亡くなりました。

水泳では、100m 背泳ぎの鈴木大地選手が、金メダル。後に潜水のやり過ぎは禁止となりました。

第 25 回は、平成 4 年（'92）バルセロナ大会です。オリンピックは 4 年に一回です。その時に絶好調でないと、金メダルを取ることはできません。生涯にたった一回の出場で、しかもその決勝の試合こそが、絶好調だった選手がいました。水泳の 200m 平泳ぎで金メダルの岩崎恭子選手です。予選からどんどん調子が上がって、決勝のときがもっともピークだったという幸運の人です。感想を聞かれて、「今まで生きてきた中で、一番うれしい」と素直でしかも幼さの残る口調が、印象的でした。

柔道の男子は、古賀稔彦、吉田秀彦選手が金メダル。金メダルの期待の大きかった柔ちゃんは、銀でした。マラソンは有森裕子、森下広一選手が共に銀メダルの快挙です。

第 26 回平成 8 年（'96）アトランタ大会です。4 年間、臥薪嘗胆で乗り込んだ柔ちゃんが金メダル一番乗りかと思いきや、思いもしない恵本裕子選手が、ラッキーな内股が決まって一足お先に金メダルを獲得。嬉しさのあまりピョンピョン飛び跳ねる彼女の姿が、いまだに目に浮かびます。金が確実に本人も周囲も思っていた柔ちゃんは、北朝鮮の無名選手の足技に尻餅をついてポイントを取られて、敗れました。試合終了のブザーの後、茫然と畳の上に座り込む彼女の姿がありました。金メダルまで、さらに 4 年の歳月を要することになります。男子は、野村宏忠選手（後のシドニーも）らほか、3 人が金メダル。

マラソンは有森裕子選手が、前回の銀に続いて銅メダルを獲得。感想を聞かれて、「自分を褒めてあげたい」は、その後ちょっとした流行語になりました。日本語としては、よくないですね。その努力は、認めますが「褒めてやりたい」というて欲しかったですね。

第 27 回は平成 12 年（'00）シドニー大会です。この大会は、2 人の日本女性が大活躍しました。

柔道の柔ちゃんは、「最低でも金・・・」と宣言しただけあって、3 度目の正直でとうとう金メダルを取りました。オリンピックに出場するだけでも大変なのに、あの小さな体を鍛えに鍛えて、3 回も出場し銀 2 枚、そして金メダルをゲット。

さて、アテネ大会もあと 50 日を切りました。
今度は、どんな記録や伝説が生まれるのでしょうか？
平成 16 年 7 月 5 日 月曜日

貨車の灯や青田を渡り遠ざかる
鉄棒に挑む跣足の大地蹴る
滔々と川波の音夏に入る
紙漉きの和紙に花蕊置いてみる
情念を秘めて燃え立つ凌霄花
夕暮れの児のむづがりや合歓の花
深緑の中に藁屋根仁王門

笠原北斗窓
吉武三和子
中山 泥子
井上佳代女
原 俊雄
中山 裕子
水津奈々子

喉元過ぎないと

萩 売豆紀 雅昭

「急性喉頭蓋炎ですな」、こともなげにその先生は診断した……。

……………

平成 15 年 7 月 20 日（日）

家族 4 人で市外へパスタを食べに行く。この時右側の喉の痛みを感じる。しかしパスタが少し飲みにくい程度で他には異常を認めず。夜もそのまま軽い痛みを感じながら普通どおり夕食を食べる。

7 月 21 日（月）

医師会のゴルフコンペで長門へ。朝は少し喉の痛みを感じる程度で前日と変わりはなく、勇んでゴルフ場へ。午前中のラウンドは好転に恵まれ暑かったが、スコアも実力どおりでいつものように昼食休憩へ。少し飲みすぎた感があったがそれほどショットが乱れることもなく、3 ホールを残すばかりとなる。カートに乗らないことをモットーにプレーをしているが、今日もここまではそれを貫いてきた。ところが、その前のホール辺りから喉の痛みが強くなり、何故かこのホールでは歩くのがきつくなってくる。何とかこのホールは歩いてホールアウトしたが次のホールから遂にカートのお世話になる。それからは早く終わって家に帰りたいと願うばかりで、何とか最後のパットを済ませると風呂にも入らず早々に帰路につく。夜は打ち上げを欠席し家で食事を摂ったが痛みのためソーメンを流し込むのがやっとであった。念のため鏡を覗くも扁桃腺や咽頭には発赤や膿栓などは認めなかった。あまりに痛いのでボルタレンを飲む。

7 月 22 日（火）

早朝痛みさらに増強、悪寒と全身倦怠も出現し再びボルタレンと今度はクラビットを服用する（併用による痙攣は出現せず）。これで少し落ち着き、朝はケーキを食べて朝食の代わりとする。全身倦怠や悪寒はボルタレンのお陰が治まっており、通常通り診療をする。昼食はうど

んを半分ほど流し込む。この頃より再び痛みが増強してくる。内服を行い午後の診療を何とか済ませ午後 5 時 30 分過ぎに耳鼻科へ。この時間診療していた冒頭の先生のところを受診、上記診断となる。

処方されたパンスポリンを飲み夕食はヨーグルトのみで済ませる。急性喉頭蓋炎についてまったく無知であったためインターネットで調べてみる。

急性喉頭蓋炎 acute epiglottitis：典拠：

STEP 耳鼻咽喉科 1 版 [44, P.197]

概念：喉頭蓋に生じた急性の炎症性疾患であり、喉頭蓋周辺に高度な浮腫が出現するため嗄声や呼吸困難を訴える。幼児と成人に多い。

- ・原因：インフルエンザ菌が起炎菌であることが多い。

- ・症状：しばしば上気道炎が先行する。

- 吸気性呼吸困難

- 嚥下困難

- ・検査：喉頭内視鏡

頸部単純 X 線（所見）：腫脹した喉頭蓋の輪郭が映る。

- ・治療：抗生剤の全身投与に加えて粘膜の浮腫を軽減する目的でステロイド剤の静注を行うこともある。重症の場合は窒息死の危険があるので、緊急気管切開の適応となることもある。

などと恐ろしいことが書いてあったため慌てて隣接の診療所へ飛んで行き、チェナム 0.5g とサクシゾン（ステロイド）300mg を持ってきて点滴を始める。夜はいつ呼吸困難が出てくるだろうかという心配とその時どう対処すればいいだろうかという不安、例えば市内の病院はどこへ行けばよいか、もし山大まで行くとなったらそれまで持つだろうか、輪状甲状間膜へ 18G の針を何本刺せば呼吸は楽になるだろうか等を考え始めると眠れなくなった。おまけに、炎

症を抑えるためかやたらとつばが出てくるものの、痛みのためにそれを飲み込めないで 15 分ごとにティッシュペーパーで採らざるを得ず、ますます眠れなくなり夜が明けるのをまんじりともせずに待つ。幸い 7 月であったため 4 時過ぎ頃から明るくなり始め何となく一安心する。よく患者さんが夜中に緊急の電話をかけてくるがその心境が良く分かった気がした。

7 月 23 日 (水)

朝は今日もケーキで済ませたが、痛みのためやっとのことで飲み込む有様だった。幸い悪寒と全身倦怠は治まったが喉の痛みはさらに増悪し、それ以後は食べ物はおろか飲み物も一切受け付けなくなった。それどころか、うがいをする際にわずかに残る水でさえ痛みのために飲み込めず、うがいもできなくなる。また声変わりをしたのが自分でも判った。いよいよ声帯へ炎症が波及したのだろうか。ただ昼間であったため診療などで気が紛れたのか不安はさほど強くなかった。

本日よりチェナムを 1 日 3 回、サクシゾン朝晩 2 回に増量する。主治医の先生に断りなく治療方針を変えて申し訳ないと思ったが、薬が飲めないのを勘弁してもらうことにした。保険でこんな治療をすればきっと査定されるだろうと考えつつも、わが身かわいさに過剰とも思える治療を選択する。食事がまったく摂れないために点滴 500ml も開始する。

7 月 24 日 (木)

まったく食事が通らなくなり絶飲食となる。抗生物質とステロイドは同じように投与し 500ml の点滴を朝・昼・晩行う。喉の痛みは少し軽快し大量の痰(?)が出だす。錆び色の独特の臭いのする粘液性の痰で初めて経験するものであった。

後日判ったことだが、この痰の細菌培養・感受性を行うと *Stenotrophomonas maltophilia* なる菌が検出されたがチェナムには感受性がなかった。いったい何が効いたのだろうか？

7 月 25 日 (金)

喉の痛みが軽くなってきたので朝アイスクリームを食べてみる。何とか飲み込めた。チェナムを朝のみとして夜パンスポリンの 1g キット(やはり後で感受性なしと判る)を使う。サクシゾンは中止する。食事は徐々に回復してくる。

7 月 26 日 (土)

抗生物質は昨日と同様で念のため夜クラビット(感受性があった)を内服する。食事はほとんど食べられるようになる。

7 月 27 日 (日)

パンスポリンを 3 回点滴する。のどの痛みは軽度あるものの食事に関してはまったく問題なくなり、抗生物質の点滴は今日で終わりにする。

7 月 29 日 (火)

再度耳鼻科を受診する。内視鏡で喉頭蓋を見せていただいたが、真っ赤に晴れ上がりそのためにいびつになっており、所々に潰瘍ができていた。麻酔科医として随分気管内挿管をしてきたが、こんなに奇妙きでれつで不細工なものは初めて見た。よく窒息しなかったと改めて感心する。

症状が取れて完治したといえるようになるまでにさらに 1 週間を要したが、その間いろいろと原因を考えてみた。そして一つだけ思い当たるのはランニング時の呼吸法が悪いのではないかということであった。私の趣味はランニングでほとんど毎日のように走っているが、通常は鼻から吸って口から出すのが一般的な呼吸法とされているのに対し私は口から吸って口から出す方が楽なのでついそのような癖がついていた。そのため、加湿器である鼻腔を通らない乾燥した空気が喉頭蓋を傷め、そこから菌が進入し炎症を起こしたのではなかろうかと推測した。ランニングは 10 年近く続けているのでこればかりが原因とはいえないが、一つの要因になった可能性はある。その後鼻呼吸を心がけているのは言うまでもない。

今回の一件で、早期診断・早期治療の重要性を改めて認識するとともに夜が患者さんの不安を増幅させるということが良く理解できた。これからは夜間の受診に対してもぶっきらぼうにならないように努めたい。

最後に余談になるが、3 か月ほど後に和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科の山中昇教授が「エビデンスに基づいた、中耳炎・上気道感染症の治療」という演題で講演されたが、その中で 10 例前後の急性喉頭蓋炎の死亡例を紹介され何件かが係争中であると述べておられた。つくづく良く助かったものと主治医の先生と悪運に感謝する次第である。

学生時代を過ごした鹿児島という街

防府 桜井 真人

今年の 4 月に九州大学病院から防府消化器病センターに転勤となりました。私は今回初めて九州以外に住むことになりました。高校までは北九州市門司区に住んでおり、学生時代は鹿児島で過ごし、卒業後九州大学第二外科に入局しました。入局後は、福岡市、別府市、日田市、中津市と転々としておりましたが、今振り返ってみるとやはり鹿児島が自分にとっては第二の故郷のように感じます。

鹿児島は九州の南の街ですが、初めて行ったのは 19 歳の受験のときでした。当時は小倉から JR で行きましたが、熊本を過ぎると単線となり、途中何度も離合のため停車し、同じ九州なのになんと遠いものかと思いました。最近八代から鹿児島まで新幹線が通るようになったようですが、博多まで新幹線が通るのはいつなのでしょう。

鹿児島といえばまず思い浮かべるのは桜島でしょうか。西鹿児島駅で降りて正面に雄大な桜島を見た時には、驚きました。こんなに近くにあるものかと。正直言って、私は桜島に人が住んでいるとは思っていませんでしたが、毎日 24 時間フェリーが往復しており、多くの人が行き来しています。桜島は鹿児島市の東に位置し、ほぼ毎日噴火していますので、東風が吹くときは市内に灰が降ります。天気予報の最後には必ず桜島上空の風向きが示されます。このため鹿児島では洗濯物は外に干せないと聞いていましたが、私は気にせず干していました。学校のプールには大抵屋根がついていますし、道路は滑りやすく、バイク事故が多いと言われています。さらに雨が降ると灰雨となり、最悪です。しかし、地元の人は桜島を愛しているのでしょうか、文句を言う人はあまり記憶にありません。

次に思い浮かべるのは西郷隆盛、大久保利通でしょうか。明治維新で力を合わせて事を成した二人が、西南戦争で袂を分かった話は有名です。司馬遼太郎の「街道をゆく」で、西南戦争で鹿児島のおもしろい人はみな死んでしまったというよう

なくだりを読んで、地元の人は憤慨していました。もちろん鹿児島では西郷のほうが圧倒的に人気があります。

鹿児島で酒と言えば、いも焼酎のことです。居酒屋で飲めば、5 合びんが 1,200 円～1,500 円程度でキープできます。貧乏学生にとっては 1 杯 500 円のビールが贅沢品でした。有名な白波はまずいので一気飲み用でしたし、居酒屋にも大抵置いてません。また、森伊蔵、伊佐美、魔王は幻の焼酎といわれ、地元では飲む機会にはめったにめぐり合えません。県外出荷用なのでしょう、福岡の居酒屋では良く目にします。あまり馴染みがないのですが、伊佐錦、島美人などが地元ではもっとも愛されている焼酎じゃないでしょうか。学生時代には、仲間とよくだれが一番酒が強い飲み比べをしていたものです。時にはけんかしながらも。

鹿児島の名物と言えば、黒豚、薩摩揚げ、きびなごでしょうか。うまい魚がないからでしょう、鶏刺しをよく見かけますが、嫌いじゃないです。ラーメンは豚骨ベースですが、麺が太く、なぜかキャベツがのっています。やはり自分には福岡のラーメンの方が口に合うようです。指宿の池田湖の近くにある唐船峡の流しソーメンは有名です。広く雰囲気も良く、確か年中無休で冬にも食べることができます。ソーメンを美味しく食べるために、真夏に車に暖房を入れて、汗だくになって唐船峡に行ったこともありました。

鹿児島弁独特の抑揚は私には優しく人懐っこく聞こえます。江戸時代によそものが薩摩藩に入ってきてすぐ分かるようにこのような方便にしたという話も聞いたことがあります。また、地元の人は鹿児島を愛している人が多く、どこかへ旅行しても早く鹿児島に帰りたくなるようです。

今では学会か友人の結婚式がない限り、行くことはありませんが、いったん鹿児島に着けば、学生時代に戻ったように感じられます。

目薬の木

山口 山口 一紘

「シンディー・ニコラス・アレキサンダー」

我が家の愛犬ゴールデン・レトリバーの血統証の正式名である。日頃は「アレック」と呼んでいる。



アメリカチャンピオンの父親と、日本チャンピオンの母親との間に 1988 年 9 月 2 日に生まれた由緒正しき名犬なのである。

1988 年 7 月父が他界し、病院の継承問題、当時進んでいた病院機能分化による老人病院への編入、医師数や医療従事者数の不足により特例許可外老人病院への格下げ等の問題が一度に押し寄せてきた。次第に煙草の本数が増え、アルコールの量も増加し、夜更かし、不摂生が続いて、急性膵炎を発症して県立中央病院に入院することになった。

“心を和ませてくれる何か”が欲しいとあれこれ考えた。

退院後、町を歩いていてペットショップの前を通りかかり……。あとは「アイフル」の商業施設でご存知のとおりである。

コロコロ庭を走り回る姿を見て「ほっと」した。

何気ない仕草にもところが和んだ。

家内は最初、家の中で飼うことに反対していたが、じっと見上げる「つぶらな瞳」を見た途端に賛成してくれた。

シモの躰ができていない間、家中おしっこやうんち、家具をガリガリ。それでもすべてが許せた。大型犬なので 4～5 か月すると食堂の椅子に飛び乗れるようになる。そして椅子から食卓へはわけはない。

夕食の時刻になり、皆が食堂に集まってみるとメイン・ディッシュの「豚カツ」が消えていた。家族 6 人全員の皿からである。

本人（犬）も自白しないし、目撃証言もないので、真犯人（犬）は判らずじまいだが、満足そうに舌なめずりしている彼の様子、状況証拠より多分彼の仕業であろうということになった。

6 か月が過ぎるとドッグショウへのデビューである。こんなわがままな犬がコンテストに出られるのかと心配した。

ハンドラー（ドッグショウで犬を連れて歩く人）が「2 週間教育します」と言って連れて帰った。たったの 2 週間であったが、実にお利口になって帰ってきた。

散歩のときは必ず人の左側に付き、歩調を合わせて歩く。止まると、止まる。もちろん食卓にも上がらなくなっていた。

それからは月に 1～2 度ドッグショウに出掛けていった。2～3 日いなくなるので寂しいが、チャンピオンになるまでの辛抱である。

京都、大阪、岡山、広島、福岡、久留米などドッグショウの開催地を転々とする。

「ゴールデン・パピー（子犬）の部で優勝」「全犬種パピーの部で 2 位」等々、あれこれの賞を



いただき、トロフィーやらリボンやら表彰状やら。

山口で開催されたときには家族で出掛けた。気が散るといけないので、参観日の父親さながら、遠くのテントの陰からこっそりと彼の勇姿を眺めたものである。

1 歳を過ぎるまで西日本のコンテストを転戦し、日本チャンピオンの資格を得てドックショウの出場は終わった。

それからは、起きてから寝るまで（私が患者さんと接しているとき以外）いつも行動を伴にした。病院内の諸会議も、新入職員の面接も同席していた。私の陰に彼がおり、彼の後ろに私がいた。家族には申し訳ないが、我が家の犬というより、私の犬であった。忘年会で「ある日の院長室」なる寸劇が演じられたことがあったが、私とアレックのかかわりを実に見事に演じてくれていて、職員もよく見ているものだと感心した。

家族がそろそろ夕食では、私の横の椅子に座らせ、食卓にステンレスの食器を並べて一緒に食事をする。

散歩は県庁までの往復 1.5 キロ、リードをはずしても私の左側を歩調を合わせて歩く姿に、道行く人から称賛の言葉が聞こえてきて心地よかった。散歩の途中で「焼鳥屋」に寄り、カウンターの「止まり木」に並んで座って、豚バラに舌鼓を打ったこともある。今思うと、お女将さんも良くやってくれたものだと、ありがたいやら恥ずかしいやら。

寒い冬には私たちのベッドにもぐりこんで寝る。夏の暑い夜は一晩中寢室を歩き回り、爪の音をカタカタ鳴らして睡眠の邪魔をした。

外出も彼と一緒にである。したがって行き先も限られてきた。下手に留守番をさせるとストレスからかゲボゲボ吐くというので、スキーに出掛けるときも連れて行った。

スキー場の駐車場の車の中で 5 時間も、6 時間も滑り終わるまで待ってけている。どうしても彼を置いて泊りがけで出掛けなくてはならない時には、「今日は帰れない」「泊まって来る」ことを懸命に説明して出掛けた。帰ってから聞いてみると「部屋の隅でしょげかえっていた」と。又思い切り抱きしめた。



恒例にしていた家族旅行も犬同伴の条件から困難になった。広島に小さな山小屋を作っているが、以後、家族旅行はここだけになった。山小屋は「聖湖」というダム湖のほとりに立っている。

ゴールデン・レトリバーはラブラドルを水猟犬に改良したというだけあって、水を見ると突進していく。犬掻きで実に優雅に、悠然と泳ぐ。木切れ等を投げてやると、得意げに啜って帰って来てブルブル水切りするのは閉口した。

金髪を風になびかせながら緑の草原を颯爽と走る姿は絵になった。

山小屋の暖炉の傍に身体を横たえていてもさまになった。

私がジーンズに履きかえると、目を輝かして、サファリの運転席の所定の位置に跳び乗るほど「聖の山」が好きだった。

平成 10 年、病院の新築が成った。もちろん職員皆の力だが、彼の存在も大きかったと思っている。当時アレックはすでに 10 歳になっていた。私の執務室が 3 階に移動してから、階段の昇り降りがきついのか、毎朝一緒の出勤をしなくなった。

この頃から家内や子供たち家族との触れ合いの時間が増えた。私が出かけた後、午前中は家内とアレックの二人きりになる。ほのぼのとした時間が過ぎていたのだろう。午後になり子供達が帰ってきて、その中に加わる。彼にとっても家族にとっても心はずむ「ひととき」であったろう。老年期を迎えてからの彼はこうして家族に囲まれ落ち着いた、おだやかな日々をすごしていた。

そんなある夏の日「すぐ帰ってきて、アレックが」。帰ってみると彼は床に横たわり息絶え絶えであった。小鱈の動物病院へ運んでもらった。「熱中症」の診断で即入院となった。仕事が終わって、大急ぎで駆けつけたが、病舎で点滴をしていた。「アレック」と声を掛けてみるが、その声を探そうにうつろな瞳を動かすだけだった。私たちにできることは祈ることだけである。“ひとりの病舎で寂しさに耐えられるだろうか”“もし最期になるのだったら、連れて帰って皆で見守ってやった方が良かったのでは”あれこれ考えて、その夜はまんじりともできなかった。動物病院からの電話はなく、朝になってこちらから病状を尋ね



る電話をした

「落ち着きましたよ。」皆歓声を上げて喜んだ。もう 4～5 日入院が必要だとのことで、昼休みに病舎を訪ねた。弱々しく首を持上げ、私たちを見てシッポをかすかに振った。動物病院の先生が頼もしく、“見舞に来られると里心がつくので遠慮してほしい”とのお叱りも納得できたし、おおいに感謝した。

ゴールデンは腫瘍の出来やすい犬種で、8 歳前後に発症するものが多い、腰を傷めやすいこと、10 歳を超えると長寿であること等おそわった。「アレックは元気な方ですよ」と云われ安心したのだが。数日たって退院してきて、さすがに体力の衰えが気になった。特に足腰が弱くなり、立ち上がりが遅くなった。早く気づくべきだったが、フローリングで立ち上がるのには瞬発的な力が必要。あわててカーペットを敷いた。夜は皆と一緒に 2 階の寝室に上がって行くのだが、自力では困難になった。彼を抱いて上がるのは私の仕事、朝は抱いて降りる。体重 40 kg を抱えての上り下りは少々くたびれる。

それ以来私たち夫婦は一階の居間で寝ることにした。これが介護の始まりである。

散歩も近場になり、自宅周辺を一回りするだけのこともあった。

この頃から金髪の中に白髪も見えるようになり、寝て過ごす時間が増えて、老いを感じるようになってきた。それでも変わらず家族の団欒の中心にいた。回数は減ったが広島山荘にも出掛け、秋の七草が咲き乱れる野原の風を楽しんでいた。娘の友人（現在は夫であるが）のラグビー観戦にも出掛けていたらしい。のんびりした日々を過ご

していたが、やはりひと夏ごとに確実に弱っていくのが分かった。散歩の途中で座り込んだり、散歩を嫌がることもあった。13 歳を過ぎてさらに弱ってきた。いつも庭に出て用をたすのだが、間に合わずに漏らすこともある。そんな時の彼の気まずそうな目が可哀想だった。起き上がる動作に気づいたら、すぐに抱いて庭に出してやる。漏らさずできた時にはほっとした様子が見えた。そのうちに後ろ足が立たなくなった。介護者は中腰になって、アレックの腰を抱え、前足でおしっこの場所を探して動き回る彼を支えて庭中を右往左往するのである。

この夏は越せないだろうと皆が思っていた。病棟の患者さんさながら、1 日中クーラーの効いた部屋で横になり、オムツを敷き、ベッドサイドに水や食べ物やら。犬の介護でも重労働である。患者さんの日々のお世話はさぞや大変であろうと、職員の努力にあらためて感謝したものである。大学に出ている子供達にも「夏休みは必ず会いに帰ってくるように」と連絡をした。家族全員の顔が揃ってアレックも大満足であったと思う。アレックと一番かわりの深かった次女が、あのラガーマンとこの秋に結婚することになっている。

それまで元気でいてくれるだろうか。職員も「アレック元気ですか」と気にしてくれる。

盆を過ぎても結構暑い日が続いていた。夏も終わりに近づいた 8 月のおわり、急に動きが鈍くなり、頭を持ち上げることも出来ず、水を飲むことも難しくなった。

動物病院へ走った。最期の時が近づいていることを皆知っていた。最期は我が家で過ごさせてやろうと、点滴のルートを確保してもらい、尿のカテーテルを留置してもらって、連れて帰った。

お陰で 9 月 2 日、アレックは 14 回目の誕生日を愛する家族に囲まれて迎えることができた。好物のシュークリームをうまそうに食べてくれた。食べ過ぎてはいけないと半分だけでやめさせたことが今でも心残りである。次女はアレックの誕生日を結婚記念日にしたいと、この日入籍していた。

結婚式は 9 月 16 日であるが、それまでは待ってくれそうにない。日々弱っていくのが目に見えた。

9 月 7 日いつものようにアレックに「おやすみ」を云って皆が部屋に入った。

12 時を過ぎた頃、大きな声で一声「ワン」と鳴いた。あわてて皆がアレックの廻りに集まった。頭を持ち上げて、あの優しい眼差しで家族みんなの顔をじっと見廻した。差し出したアイスクリームを一匙、二匙舐めて、ゆっくりと横たわった。それが最後だった。14 年と 6 日間。私たち家族にとって「かけがえ」のない言葉に尽くせない日々であった。私の院長職を、新病舎の建築を、子供達の成長を、私たちのすべてをあの優しい眼差しでずうっと見守ってくれていた。「ありがとう」

それだけ云うのがやっとだった。

その日はちょうど日曜日で私はゆっくりと彼を送る準備をした。セレモニーの段取りや花を買い揃えたり、気遣ってくれた人達にも連絡ができた。大阪の大学に行っている娘も帰って来た。ささやかな葬儀だったが、家族の他にも参列して下さった。棺には家族の写真や聖山荘、4WD のサファリの写真、散歩の時のリードや赤いレインコート等思い出の品々を。そしてとうとう彼が見





ることのできなかった次女の「ウエディングドレス姿」の写真も入れてやった。

近くの山の中で茶毘に付して来てくれたのだが、思い出をたどりながら皆だまって遺骨を拾い集めた。

アレックは我が家の愛犬であっただけでなく、かかわった人に何かを語りかけ、優しく包んでくれる犬だった。それぞれの人の心の中にいつまでも生きていると思う。

彼の眼差しをみているとすべてのことが許せる。そんな存在であり、私にとっては心の大きな支え、良きパートナーであった。

報せを聞いて多くの職員も駆け付けて来てくれた。疎遠になっていた友人もアレックの遺影の前に好物のビーフジャーキーを供えに来てくれたのはとても嬉しかった。これも彼のお陰である。

「アレックがいなくなって、院長先生は大丈夫だろうか」皆が心配していたが、日々の仕事に追われて私は結構元気に過ごしていた。次女も結婚して夫の愛に包まれ、心穏やかに過ごしているようだった。

意外にも一番「こたえた」のは家内だった。一日中アレックと過ごしていただけに、心の中に大きな隙間ができて沈みこんでいた。

見かねたペットショップのご主人が「も一度犬を飼いませんか」「犬の悲しみは犬でしか癒せないのですから」と言って、近頃人気のミニチュア・ダックス・フンドを見せにきた。アレックの介護をしている時分、夫婦共に腰を傷めてしまった。

「今度飼う時にはもう少し小さな犬にしよう。と

ても 10 年後にアレックの様な大きな犬の面倒は見られない」。などと話していたのを聞いていたのだろうか。

アレックの 49 日を済ませて、ダックスがやって来た。

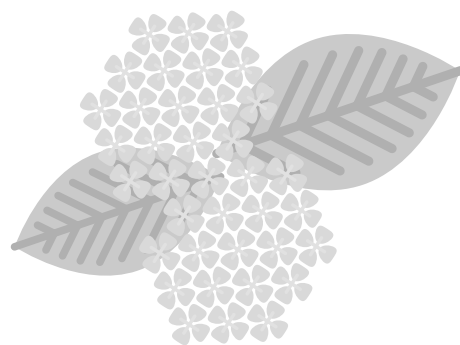
ゴールデンに比べて余りにも小さく、頼りなくて、今では“二匹”のミニチュアダックスフンドが庭の中を走り廻っている。

その庭の隅の「目薬の木」(落葉広葉樹)の下でアレックは眠っている。

大好きだった「聖の山」を思い出しながら。私たち家族と病院(?)を気遣いながら。

そして今年も目薬の木の芽が膨らんできた。

[山口市医師会報平成 16 年 2 月号
より転載いたしました。]



消火器は重い

下関 加藤 康子

昔、京都で学生をやっていたころ、狭いアパートで妹と二人暮らしをしていた時期がある。私は医学部の 6 回生、授業にポリクリに忙しい毎日だったが、妹は文系だったので、カリキュラムものんびりしたものだった。

必然的に妹は一人で留守番することが多くなる。ある夜、実習を終えて、6 畳一間のアパートに帰ってきてみたら、大きな消火器が 2 本、鎮座ましましていた。

「な、なに?! この消火器!」私は驚いて妹に尋ねる。

妹はおずおずと

「あのお、お昼に、消防署の方から来たという人が……、二人、やってきて……」と答える。

うん? うさんくさい話……と私は心の中で思うが、黙って妹の話を聞く。

「消火器、部屋にあるか? って聞くから、見回したところ、消火器、廊下にはあるんだけど、部屋にはないし……、それで、ないって言ったら、それは危険だって、おじさんが」

うむ、まずい展開になりそう。それって、詐欺? しかし、田舎から出てきて間もない妹を叱りつける訳にはいかない。世間知らずの 18 歳の娘なのだ。

ぐっとこらえて、私は妹に諭すように聞く（長女の優しさ）。

「ふうーん、それで買ったってわけね? それは分かるけど、何で 2 本もあるわけ?」

「台所に一つと、部屋に一つ消火器が必要だって言うから、2 本」

ま、まさか、この 6 畳一間のちんけなアパートに、なんで 2 本も消火器が必要なのだ!

騙されていることがわからんのか? と言いたいところだが、こども私はこらえる。

「で、お金はどうしたの?いくら払ったの?」

「一本 9 千円で、1 万 8 千円……」

い、いちまんはっせんえん!?!、そんな大金をいったいどこから?

四半世紀以上昔の話なのだ、貧乏学生に出せる額ではないぞ、その 1 万 8 千円!

「大学の合格祝いに、おじちゃんとおばちゃんからもらったお金があったから、そこから払った」

う、ばっかじゃないの? なけなしの合格祝いから、1 万 8 千円も払って、不要な消火器を 2 本も買ってしまうなんて……、姉は絶句、妹は今にも泣き出しそう。

重い沈黙が、アパートの部屋を支配する。間近に見る消火器は意外と大きく、狭いこの部屋で堂々たる存在感を示している。

しょうがない、もう夜も更けてきた。明日考えよう、明日は明日の風が吹くと思いながら、妹と私と 2 本の消火器は肩を寄せ合うようにして、眠りに就いた。

翌朝、やっても無駄だとは思いつつ、わらにもすがる思いで、私は消防署に電話を掛けてみた。

そしたら、意外にも手応えあり。対応の消防署員さんは、私たちの訴えに優しく耳を傾けてくれ、ひとまずその消火器を見てくださいという話になった。アパートから消防署までは約 2km、結構な距離だ。夏の暑さでは有名な京都、その暑さの中を、私と妹は 1 本ずつ消火器を抱えて歩いていく。消火器は重い、重い消火器を抱えて歩く 2km は遠い。汗がしたたり落ちる。すれ違う人々が不思議そうな顔をして、私と妹を見つめている。そりゃ

そうだ、若い娘二人が、一本ずつ消火器を抱えて、炎天下、京都の町なかを歩いているのだ、振り返らない人がいるだろうか。しかし恥ずかしがってもらえない。私たちはなんとか 1 万 8 千円を取り返そうと必死なのだ。

ようやく消防署にたどり着いたら、署員さんが、消火器メーカーの人を呼んで待ってくれていた。

署員さんは、メーカーの人に向かって、

「ね、気の毒でしょう、このお嬢さん達。1 万 8 千円もだまし取られて……。以後、こんなことがないように、お宅の方でも気をつけてもらわなくちゃね」と叱っている。

メーカーの人は「はぁ、申し訳ありません」と小さくなっているが、考えてみたら、メーカーの人にはなんら責任はないような気もする。消火器自体が偽物ってわけじゃないし、それを仕入れて詐欺まがいの押し売りをした奴らが悪いのだ。結局、メーカーの人が、2 本の消火器を引き取ってくれることになり、1 万 8 千円は私たちの手元に戻ってきた。これは考えてみると奇跡的なこと。

消防署を出た途端、妹は私に向かって「おねえちゃん、やったね」と V サインをしてみせる。あーあ、あんたって、懲りない子、そりゃ、私だって心の中は V サインでいっぱいだけど。

かくして、一件落着、ハッピーエンドだったが、このあとも、インチキ訪問販売や怪しげな新興宗教への勧誘は後を絶たず、この生き馬の目を抜く都会で、私たちは漂いながら、さまよいながら生きていく。

しかし、昨今の事件報道を見るにつけ、あの時代だからあれで済んだと、今更ながら胸をなで下ろしている。

まんまと田舎娘を騙した詐欺師達もどこか牧歌的だし、消防署のおじさんもやたらと親切、メーカーさんも人がいい、V サインの妹も呑気なことこの上ない。70 年代だから成立し得た逸話だなーと振り返って懐かしく思うのである。

~~~~~

## もう一人の「カイシュウ」

吉南 小林 憲治

幕末動乱期の万延元年二月十日（旧暦正月十九日）、徳川幕府は日米修好通商条約第十四条に基づき、使節（正使・新見豊前守正興、副使・村垣淡路守範正、監察・小栗豊後守忠順）を米国へ派遣する事になった。

正使節一行は米国軍艦「ポーハタン号」に乗船したが、その随伴船に咸臨丸（コルベット艦＝平甲板・一段砲塔の木造帆走軽巡洋艦→排水量 625 噸、総噸数 380 噸）が選ばれた。

さて、「咸臨丸」と言えば「勝海舟」と代名詞の如く言われ、勝海舟だけがやたらと目立つようであるが、この船に隠れた逸材が乗船していた事を忘れてはならない。

咸臨丸には勝麟太郎艦長以下九十六名の日本人が乗船したが、訪米使節副使・軍艦奉行木村摂津守喜毅（隠居後、芥舟＝カイシュウと号した）も同乗して居り、私はこの人物をこの話の主人公としたいのである。

咸臨丸は、ポーハタン号より三日先んじて浦賀を出航した。が、何しろ季節は真冬のことであり、出航後、早々から荒天に出会った。ほとんどの日本人乗組員は遠洋航海経験が初めてだったから、中浜万次郎、浜口與右衛門、小野友五郎を除く全員が船酔いで操船作業に従事する事が出来ず、咸臨丸に便乗したジョン・マーサー・ブルック米国海軍大尉他十名の米国乗組員達の繰船運用で、怒



濤の太平洋を乗り切った事は周知である。彼等の乗船スクナー艦「フェニモア・クーパー号」が台風に遭い日本近海で座礁、帰国の便乗船を待って居たのである。

実は、ブルック以下十名の乗船と通訳に中浜万次郎を選んだのは木村の裁量であったが、もし、この選択が無ければ、未曾有で画期的な日本人による太平洋横断は覚束なかった、と言われる。

一方、出航前の勝は内心では兎も角、「外蕃＝外国人の力は借りない」と言っていた。なお、咸臨丸往路の三十七日の内、晴れた日はわずかに七日だったと言う。

木村喜毅（芥舟）と勝麟太郎（海舟）は共に幕府譜代の幕臣で、両者は長崎の海軍練所時代から職務上で関連していたが、この二人の対比をいきなり咸臨丸の話に出したのは私の浅学知識からすれば、太平洋往復、特に、難航の往路はもとより滞米中や復路咸臨丸上の両者の役職・行動・態度・性格などを対比して説明しやすかったからである。

咸臨丸では、木村摂津守喜毅は軍艦奉行・遣米使節副使として、一方、勝麟太郎は船將（艦長）と言う役職で乗船したが、ブルック大尉（当時、三十三歳）は、その日記の中で木村をアドミラル（提督）、勝をキャプテン（艦長）と記している。つまり、年下の木村が勝の上役だったのである。

この時、木村（三十歳）は二千石、勝（三十八歳）は二百石の禄高であった。なお、長崎時代は木村が海軍伝習所取締役（伝習所々長？）、勝は講武所砲術師範役（大番）だった。

時の宰相井伊直弼の頃から人材の登用が重んじられ始めたとは言え、まだ、家系、血筋、氏素性、出生などが大きく左右した時代だったから、咸臨丸では、八歳年下の木村が提督で勝が艦長だったのは「家の格」で決められたのだろう。共に譜代の旗本ながら、木村は浜御殿奉行、勝は小普請の嫡子として生まれたのである。

米国へ向かう疾風怒濤の洋上に荒れ狂う木葉の如き咸臨丸船内では、木村も勝も共に船酔いに辟易し苦しんだ。特に、勝は極度の船酔いもあったのだが、気分的な感情も手伝って、ほとんど、船室に籠もりきりで艦長の役を務めていなかったようである。しかも、太平洋上の真っ直中で気分がもっとも昂揚した時、「ボートを下ろせ。日本へ

帰る」と言って皆を困らせた。勝はかなりの癩癪持ち、やや僻みっぽい性格だったと言う。特に、航海中は年下で上役の木村へしばしば八つ当たりした、と記録にある。

一方、木村は極めて穏健な性格の持ち主だった。木村も船酔い組の一人であったが、彼の存在は陰に陽に乗組員の心の支えになったようである。その結果、サンフランシスコからは本来ならば彼は副使節役として本使に追従してワシントンへ向かうべき所だったが、日本人のみの復路操船に当たり、和合上、咸臨丸の帰路には彼の人間性が不可欠で乗船を余儀なくされたようである。

その詳細の数々は省くが、つまり、勝艦長は乗組員の信用を失い、船長失格の烙印さえ押されていたようである。勝海舟については、サンフランシスコ港入港時にも掲揚旗や祝砲などで物議を醸しているが、その詳細もここでは割愛する。

サンフランシスコについてからの木村の行動は見事で、その有能性を遺憾なく発揮して米国人も絶賛している。滞米中、二本差しと羽織袴の姿で通した彼を、当地の「デーリー・アルタ・カリフォルニア」紙は「・・・温厚慈悲を備えた人物・・・」と書き、「ブレッティン紙」は「貴人の相貌あり」と評した如く、毅然とした態度を貫き、一方、部下に対しては「木村訓辞」で引き締めながら名指揮官ぶりを示した。特に、礼については厳しかった、と言う。

かくの如く、木村の個人的な評判は好評で、各地の歓迎会やレセプション等に引っ張りだこで歓迎され、まさに寵児の人気だったと言われる。

ドナルド・キーンは、その著書の中で木村を評し「外国の土地で、外国人に交じって、日本人としての自己を失わずに、易々と、しかも相手に感銘を与えながら振る舞った」と驚嘆している。

話は前後するが、彼は渡米に当たって家財を処分して三千両を作り、さらに、幕府より五百両を借り受けたと言う。乗組員の薄給を見越して、彼らの困窮の手助けのために自腹負担を決め込んだ「手持ち金」である。

幕末期の逼迫財政の幕府、しかも、巨額の費用を要する渡米費用に当たって乗組員への渡航手当は不足がち、しかも、出帆間際になってやっと支給されると言う体たらくだった。

幕府高官である木村はその現状を百も承知で、

それを見込んで部下のためにと私財を用意し薄給を補ってやり、滞米中に於ける武士としての対面を保つ費用に当てさせ、士官はもとより水夫・火焚に及ぶまで費用・恩賞を度々与えたい。その恩賞総額だけでも百両を優に超した、と言われる。士官・水夫・火焚達の土産物代にも私金が与えられたことは、容易に想像できる。当時の米国は物価高で、日本の 7～8 倍、物によっては 20～30 倍だった、と言う。

木村は、咸臨丸の遺米理由と彼の搭乗決定について、次のように言い残している。「そもそもこの航海は、わが国の使節海路の警備・航海練習のための派出である。西洋諸国では乗組員はそれぞれ階級俸禄を付与し平日より準備が行き届いているが、わが国は乗組士官も一定の人員さえなく、しかも、わずかに十口、あるいは五、七口の給米しか当て得られていない。どうして、このような薄給の人々を『万里の波濤を冒し生命を賭する航海』に行かすのか」、そして、「・・・余は出帆前此事を政府に上言し、応分の俸給位階を定め、其の規則を設けんことを乞いしに毫も省せられず。さればとて余が輩、若し此行を辞せば外に代わるべき人なく、我国海軍の端緒を啓かんとするの盛挙も忽ち瓦解に帰せんこと、真に千載の遺憾なれば、そは此行を首尾能く終わりし後と定め、一死を決して其命に従い、乗組の人々にも懇々慰諭し・・・」と記し、また、後年になって当時を回想して「幕府は大した費用を出さない。といって水夫らに手当を与えて労を謝さぬわけにもゆかないだろう。金がないからと私が辞職してしまえば、ほかに代わる人がいない。そうなれば水の泡だ。日本海軍の端緒をひらこうという破天荒の大盛挙も、すべて瓦解してしまうことになるだろう。だから財布の底をはたいたまでのことよ。大したことをやったわけではない（原文のまま）」と回顧している。正に、この事こそが「隠れた善行」だ、と私は木村撰津守に喝采を惜しまないのである。

当時三十歳、若き木村の心中には「幕府 VS 倒幕聯合」の思想より、世界に向かって進むべき日本の将来の事しか映ら無かったようである。鎖国という現状の狭き視野の中で、彼は醒めた眼と無私の心で世界情勢と日本の将来を見据えていたと思われる。

彼は、往路の咸臨丸を操船した米国海軍水兵に

も報酬・謝礼を与えた、とブルック大尉は、後日、「ブレッテン紙」で後述している。就中、咸臨丸の修理まで始終付き合ってくれたブルック大尉との別れに当たって、千両箱を開けて「好きなだけ持って行ってほしい」と言う木村、「滞日中以来、大変お世話になったので当たり前のことをしたまで」と断固として受け取りを拒絶するブルック大尉・・・。

国は違ってもお互いを偉丈夫と評し合う二人の友情関係にも、私は大いなる感銘を受けている。「偉丈夫」とは、当時の士道では最高の賛辞の言葉だった。

木村自身が持参した手持金の三千五百両は、帰国時にはすべてを使い果たしていた。一口に三千五百両と言っても、百両も有れば江戸市中でもそこそこの土地付き屋敷が買えた時代である。平成の今の時代に換算すれば、二桁に及ぶ億と言う現金である。

もちろん、若い彼が金銭を以て人望を買ったと言う見方も有ろうが、私はそうは思わないし、寧ろ、この無私の行為こそが彼の「隠れた善行」だと思うのである。

当時の海軍従事者は、与力、同心、地方代官の手附、手代と言った俸禄百俵未満の小身者ばかりで形成されて居た、と言う。近代海軍としての制度が何もできていない幕府海軍の現状を、若い頃から見続けていた木村だった。特に、「彼等の俸給的窮状」を熟知して居り、彼は長崎時代からこの窮状を汲んでいろいろと画策したが幕府当局は一顧だにしなかった、とある。

乗組員の組織・給料体系について言えば、長崎海軍伝習所で「スマートな西洋海軍」を目の当たりにした彼には、日本人には想像もつかないような西欧諸国海軍組織（組織、階級、俸給制度、服章規定等）は羨望の的であり、この体系こそが彼の究極の憧憬だったのかもしれない。だから、せめてその不足給料分だけでも、と私費で補ってやったのである。そして、後日、彼は海軍の階級俸給制度制定、海軍振興制度確立に奔走し情熱を傾けたのである。

因みに、咸臨丸の渡航費用としての公費は、往復の諸費用買入代見積として七千六百三十四両一分、別に、在米中費用としては八万ドルが支給された。しかし、木村は徹底した節約に努め、帰国

後、公金のうち邦貨の 75.6%、ドル貨の 88.7% を返金した。幕府の窮状を知り尽くしている彼は、公金の節約には、極力、気を遣ったのである。なお、咸臨丸の修理代金のすべては、米国の好意により米国負担だった。

さて、嵐のために満身創痍となった咸臨丸は、メイ・アイランド海軍基地で修理することになった。軍艦奉行の木村は、また、遣米使節副使でもある。しかし、ワシントンへ行きたい本心を曲げてまで正使と行動を共にしなかった木村は、サンフランシスコに残って船修理の指揮・交渉に当たり、ここで彼の敏腕は遺憾なく発揮された。そして、メイ・アイランドに於ける官民・家族との心温まる草の根交流では、彼をさらに成長させた。

一方、咸臨丸の滞米五十余日中に日本人乗組員達が「異国の人と毫も不快の事」を起さなかったのは、木村の指示・統率のよと言われる。このように、彼は統率力とともに臨機応変で機転が利き、融通性に富み、さらに、先見性の目も兼ね備えていたと言う。

てきばきと滞米中の外交行事をこなした木村は、前述の如く、使節団には随行せずサンフランシスコに在って帰路の咸臨丸に同行乗船することになった。木村の帰路同乗は、咸臨丸乗員の総意だったと言われる。恐らく、彼に絶大の信頼を寄せる乗組員達の切望が有ったものと思う。(因みに、咸臨丸以来、彼に心服した福沢諭吉とは管鮑の交わり・生涯近親の間柄となった。)

そして、結果的にはこの「使節団不随行・咸臨丸帰路乗船」と言う木村決断が「日本人のみによる初の北太平洋横断航海」を成功させたのである。咸臨丸の復路は、滞米五十三日の間に得た知識と経験を基にした日本人だけの完全操船だった。なお、追記しておけば念のためにと乗り込んでいた米国船員十名は暇を持て余した、とある。

特筆すべきは、直接的な操船への指導はともかく、木村が乗船しているだけで乗組員達へ及ぼす精神的影響は大きかったのである。彼らは、木村を信頼し頼りきっていたようである。ブルックも「彼は船乗りではない」と言ったというが、木村は海軍のことを一番熟知していた。

帰国後、軍艦奉行の木村は海陸御備向並びに軍制取調の職を命じられた。そして、軍艦組創設、小型蒸気軍艦建造、米国への軍艦二隻発注や留学

生派遣を建議・・・と矢継ぎ早に活躍する。

その後は海軍職一筋に活躍したが、中でも「大海軍計画」、「海軍階級俸給制度」等の建議提出が秀逸である。結局は、両建議共に容れられず「おくら」になったが、「大海軍計画」は六備艦隊とも言われ、明治以後の連合艦隊の原型となった。

この時代は日本国土防備上、特に海防上で「大海軍計画」の重要性が説かれたにも拘わらず終末幕府の逼迫財政で挫折したのである。

因みに、大海軍計画構想を大雑把に言えば、六備十五組＝東海備え三組、東北備え四組、北海備え一組、西北海備え一組、西海備え三組、南海備え三組。船数三百七十艘、乗組人数六万二千二百五人、その他の船数七十五艘乗組人数三千七百五十人、と言う壮大なものであった。

また、「海軍俸給制度制定＝将士資級の建議」が通らなかったのは、人材登用と家系制度廃止に対する反対勢力の抵抗にあったと観る。いつの時代にも、保身的反対勢力と言うのはあるのである。大政奉還による徳川幕府瓦解後、木村は度重なる明治新政府の懇請にも拘わらず拒絶、「海軍所頭取兼勘定奉行勝手掛」を最後に三十九歳で隠居し、その後の半生はまったく無禄で過ごし、野に有って文人として交友関係を楽しみ、特に、漢詩文の素養を恣にした。悠々たる彼の余生人生の暮らし振りが偲ばれる。

全国人口統計の行き届かない時代であるし、幼児死亡率が高く、場合によっては「間引き」さえ行われた時代、また、例えば吉田松陰(享年 30 歳)や坂本龍馬(享年 33 歳)等のように不慮の死の多かった時代だから平均寿命も 30 ～ 40 歳程度だったとは言え、木村の 39 歳での隠居は早すぎると思う。因みに、勝海舟は 77 歳、木村芥舟は 72 歳で天寿を全うしている。

そこで、私は推察を凝らすのである。嘗ての世相では、「忠臣不事二君、前朝の遺臣は新王朝に仕えず」と故事は言う。

木村撰津守が如何なる考えを以て三十九歳の若さで隠居したのかは定かではないが、私は木村が「徳川幕府に貞節を貫いた」、「幕府に恩顧を感じて明治新政府に与さなかった」と思うし、敢えて日本人の感覚で言わせて貰えば、これも、また、天晴れな行動と言っても過言ではないと思考する。彼は人当たりが柔らかで一生を正義派で貫い

たが、ある意味では筋の通った頑固者でもあった、とも言える。

一方、勝海舟は明治新政府の高官(参議・海軍卿、枢密顧問、貴族院議員伯爵議員＝辞退、等)に出世したのである。世俗は「駕籠に乗る人、担ぐ人、その又駕籠を造る人」とも言うから、木村は敢えて駕籠に乗らなかったのだろう。

坂本龍馬が日本海軍の開祖、本格的組み立てをしたのが勝海舟、と言うのが通説だが、大海軍計画構想を立てた木村こそが、近代日本海軍の実質的な創始者だったと言えまいか。

当時の世界情勢と四方を海に囲まれた日本に大海軍が早急に必要なのは、万人が認めることであつた。しかし、莫大な費用を要する為、誰も手を着けず外から眺めているだけだった。絶対的必要性を認めていても、実施困難と判れば誰もその矢面に立ちたがらない。いつの世も同じ現象である。

それを木村は自分の使命と考え、貧乏籤と知りつつ、しかも、何度も挫折感を味わいながら粘り強く努力を重ね、「捨て石」覚悟で矢面に立ち、遂に実現不能と知った時に引退したのである。どんな場合でも、今何をなすべきかを考えて職責を果たすのが木村の性格であつた。

初め、私は木村摂津守を「埋もれ木の人間」と解釈していたが、これは少し思い違いで、この言葉は的確性を欠いたようである。だから、今では彼が自分の意志で若くして隠居の道を選んだのは「能ある鷹が自ら爪を隠した」のだ、と思うようになった。

それにしても、彼ほどの人物が明治の大行政改革に関与せず、若くして引退の道を選んだのは、なんとしても時代の損失だったように思う。

もちろん、徳川幕府に操を立てたのだろうし、私は勝手に「渴しても盗泉の水は得ず」という気概で吾が道を進んだのではないかと解釈している。時流に敏感に反応して変わり身の早い人も居るし、一方、「武士は食わねど・・・」的に頑なに自説を貫き続ける人間があるが、この木村のような「清廉にして無私の人物」が、新体制に荷担しなかったのは日本国の損失だった、と私は彼を偶像視して崇めている。とりわけ、彼の晩節の枯淡さには感銘している。

隠居後、彼の海軍への意志は咸臨丸以来の部下

達や子息等に依って繋がれた。つまり、彼の意志を継承した嘗ての配下達が新政府でも縦横に活躍し、彼の二男二女(他に一男が夭折)のうち、長男は海軍軍人として日清・日露の海戦で活躍して海軍中將で退役し、東大理学部に学んだ次男は海軍技師として当時では世界に誇る船舶用無線の実用化に成功し、「・・・天気晴朗ナレド・・・」の諜報で日本海海戦完勝の一因を作り、次女も海軍軍人高官に嫁し、形を変えて彼の海軍に寄せる思いは継がれた。

以上の記述は、一般的に「カイシュウ」と言えば勝海舟が有名だが、陽の当たる歴史の表道を歩いた「カイシュウ＝海舟」とは別人で、一般的・歴史的にはあまり知られていないが、捨て難い立派な「カイシュウ＝芥舟」と言う人物も居た、と言う話である。

彼が動乱の幕末期に幕府の鼎的要職を担ったことは事実だし、就中、その功績の最たるは日本海軍の原型を手掛けたと言うことである。

ここでは、主として彼の性格的な面を紹介したつもりである。もちろん、私の木村摂津守喜毅(芥舟)の断片的な一部紹介に過ぎない。しかも、彼のことを記した少ない著述書の中から、私なりに解釈して抜粋記述したに過ぎない。稚拙な説明でもあり十分な紹介もできなかったが、三十九歳で隠居するには惜しまれた人物だったこと、私は初め「埋もれ木の人物」に感じたが、実は奥深い人物だったと言うことを付記して「木村摂津守芥舟」の話を終わりにしたい。彼の偉大さの一端でも理解していただければ幸甚である。

なお、木村摂津守の話から、私はある意味で「秘めたる善行こそが最高の行為」と思うようになったし、「善行は決して作爲的であったり、己がひけらかして自己誇示すべきものではない」ことを確信した。

勝れた人間の真の本質は、他人が認めてこそが真価であつて、決して、自己顕示・自己誇示するものではない。そして、隠れた逸材だったとか、献身的貢献だったと言うものは、屢々、後日になって他人が明かすもので、それこそが見返りを求めない尊い人間性と言うものである。例えそれが善行であっても、善意を売名にして及ぶ行為こそはもっとも忌避さるべきである、と思うのである。

## お墓ってなんだろう

下関 筒井 秀樹

この題を見て、“縁起でもない!”と思われる方もおられることでしょう。これは、ある日のこと“今度、墓を建てることにした”と言う母からの一本の電話から始まりました。

“うちの父は、3 男坊で本家の墓には入れないことや、田舎は遠方で、両親のどちらかが亡くなれば、一周忌までに近くに墓を建てねば”と考えていましたが、“なぜ! 急に今なんだろう?”と不思議に思い問いただすと。「たまたま、電話があり、市内では、すぐ売れてしまいそうな希少物件の案内があり、これも何かの縁と思うの!」どうも、マンション販売によくある電話商法に似ていました。“希少価値”、“何かの縁”、などと生い先短い老人には弱い言葉を並べられ、舞い上がっている様でした。

“子供たちには、迷惑をかけまい”とする両親の気持ちも分かり、無げに“辞めろ”とも言えず、現地の視察について行くことになりました。案の定希少価値とはほど遠い、古いお寺の隣りに造成した道路脇の墓地でした。生前に建てるお墓を寿陵<sup>じゅりやう</sup>といい、縁起がよいものであることも分かり、一緒に探すこととなりました。

数件の霊園視察後、自宅から近くで、施設の整っている民営の霊園に決まりました。しかし、いざ建立するとなると、和型、洋型、五輪塔などいろんな形があり、担当者にそれぞれの意味について、尋ねても釈然とする答えが無く、結局のところ「ご本人の好みでよいのです」なんて言われるにいたり、日頃無神論者に近い私も、急に仏教徒になり“どうせ作るなら正しいお墓を作ろう”と書籍をあさることとなりました。

仏教伝来以前は、一部の支配階級層以外の葬儀では、土坑墓が主流で、死者は恐れられ、その霊を封じ、生きている人に害を及ぼさぬようにと、

土中に埋めて石が置かれていました。

仏教伝来(538)により、死者(先祖)に対する恐れから、尊敬の心になり、死後も先祖との関係が大切にされ、お墓の概念は大きく変わっていくことになります。お釈迦さまの遺骨を埋葬したストゥーパ(仏舎利塔)が、大陸の影響を受け日本的に変化したものが、五重塔や三重塔で、これらを建立して先祖を供養するようになります。さらには、670 年(天智天皇 9 年)ごろに建立された藤原(中臣)鎌足の墓碑が、遺体を埋葬した場所に石や木で塔を建てたもっとも古いものとも言われています。また、お釈迦さまが火葬された影響で、土葬から火葬へと徐々に変わって行きます。火葬のことを“荼毘<sup>だひ</sup>に付す”といいますが、これはサンスクリット語の火葬を意味する“ジャーピタ”の音を漢字で表したものです。上層階級に火葬が広がってゆき、骨を現在のように骨蔵器に納めて埋葬するようになります。しかし、庶民にとっては、火葬が主体となったのは、明治以後のつい最近です。

平安時代後半になり、塔や堂宇に替わって建立された石による塔が、“五輪塔”です。五輪塔は空海や最澄らの持ちこんだ密教の教え「万物は 5 つの要素(地・水・火・風・空)の集散・離合による」ことにもとづき、5 つの石を積み上げた塔で、中国、朝鮮などの大陸では発見されておらず、日本独自のものと考えられています。

鎌倉時代になると多宝塔・宝篋印塔・卵塔が建立されるようになり、吉相の墓(墓の持つ霊妙な力: 子孫繁栄)への研究が進むことになります。しかし、墓相、風水などは、一部特権階級の繁栄のための学問で、世に広めることが禁止され、一般の人々は、川辺の石を置く程度の墓でした。

ところが、江戸時代初期になりキリスト教を

恐れた幕府は、鎖国（1633）、さらに寺請制度（1635）を実施します。これにより、すべての住民は、キリシタンでないことを寺院の檀家になり、“宗門人別帳”に記載される必要が生じました。そして、葬祭はすべて寺院で、仏式で行うことも義務づけられたのです。キリシタンでない証として、皮肉な事に一般庶民も墓石建立や戒名をつけるようになりました。ちなみに、戒名とは、出家した人が生前に師僧につけてもらう名前でしたが、寺請制度を期に仏教徒であった証明として、死後つけるという日本独特の習慣になったようです。

この頃に、現在の和型墓の原型ができあがっていきます。それは、三段角柱墓で、上から竿石、上台、中台からなります（その下に芝台があるものもあります）。これは、当時の福祿寿信仰から、竿石＝寿石：寿命の長さや健康を表し、上台＝祿石、中台＝福石は、動産・不動産を表しています。また、天、人、地を表現しているとも言われています。

いろいろ調べたせいもあり、完成したお墓に

手を合わせると、先祖に対する崇敬ばかりか、時空を超えたこの国の文化、成り立ちまでが、お墓の形に凝縮されているように思えるようになりました。そして、墓地の供給不足のため屋外墓所から、ロッカールームのような屋内墓所や納骨堂が新しい形体として、定着してきている現在の日本に悲哀を感じるのは、私一人だろうか？

この原稿が載るのは、お盆の頃でしょう。ちなみにお盆のいわれをご存知でしょうか。これは、日本古来の民族信仰と孟蘭盆会<sup>うらぼんえ</sup>が結びついたものと考えられています。お釈迦さまの弟子目連が、地獄で逆吊りになって苦しんでいる母をお釈迦さまの教えに従い、大勢の僧侶に食べ物を供養することで救うことができたとの言い伝えによるものです。“逆さまに吊り下げられた苦しみ”というサンスクリット語（ウランバナ）を漢字でしめしたのが孟蘭盆会なのです。しかし、孟蘭盆経は、お釈迦さまの教えにはなく、中国で後から作られたもので、仏教発生地インドには、お盆はありません。

## 皐 月

原 晴朗

皐月の陽恵み豊かにして新樹の道  
皐月の雨に古木の躑躅いとほしく  
維新の道下れば薊の花枯るる  
溪の流水減らし減らして皐月尽  
鴉声かへして溪の新緑冴えかえる  
浄雲に童心乗せて維新の道  
皐月の雨に老の鼻水とどめなく  
煙雲おほふ山陰の村夏日なる  
煙霧明け睡眠不足花咲く村に  
空梅雨の畑神経失調の野菜

## 杭州西湖に学んだ岩国の錦帯橋

岩国 吉岡 達生

岩国の錦帯橋<sup>きんたいきょう</sup>は、3 年かかって平成 16 年 3 月に、平成の架け替えが完成しました。このように、木造部分<sup>きようたい</sup>（橋体）は朽ちてくるため、いくたびも木造部分の架け替えを行っています。岩国藩が錦帯橋<sup>きんたいきょう</sup>を創建したのは、江戸前期の 1673 年（延宝元年）のことで、独創的な着想と技術の成果です。それまでは、梅雨や台風になると錦川の激流のため、建設した橋は流されていました。岩国の錦帯橋は、川幅が 200m もある錦川に「流れない橋」をかけるという課題に対する、一つの解答例です。

さて、岩国錦帯橋の歴史については、原著や総説など、多くの文献があります。しかし、すべての事柄が十分に解明されているとはいえません。たとえば、錦帯橋命名の由来や錦帯橋を詠んだ漢詩は、研究が不十分です。著者は、岩国の地方史研究家として錦帯橋の歴史を研究中で、いくつかの新知見を原著の論文として発表しました。

今回は、岩国錦帯橋の創建と命名に、中国の杭州にある西湖<sup>せいこ</sup>（蘇堤・白堤<sup>そてい</sup>）が深く関係していることを総説的に述べます。とくに、中国杭州出身の僧独立との国際交流が軸となります。

### 杭州の西湖とは

西湖は、浙江省の省都・杭州市の西にある湖です（図 1）。周囲およそ 15km、東部をのぞく三方を山に囲まれ、名所旧跡に富んでいます。唐代の白居易が、杭州の長官のとき、灌漑のために堤を築きました。白堤と呼ばれます。その後、北宋の時代に蘇東坡が、杭州の長官となり、蘇堤を築きました。

なお、白居易は、中唐の詩人しても知られています。また、蘇東坡は、唐宋八大家のひとりで、詩人としても有名です。

日本では鎖国の江戸時代に、中国の名所たとえ

ば西湖や瀟湘八景は、訪れることのできない憧れの地でした。江戸時代の日本人の画家は、まだ見ぬ中国の名所を水墨画に描いています。とくに、西湖にちなんで、東京の不忍池を、日本の漢詩人は「小西湖」と呼んでいます。

### 僧独立と岩国

僧独立は、明が滅び清の世になって、中国の杭州から日本の長崎に亡命していました。黄檗宗の禅僧となり、名医として有名でした。もとの名は戴笠（字は曼公）で、僧の名は独立性易です。

僧独立は、吉川広嘉（第三代の岩国藩主）の病氣治療のために、四度にわって岩国に来遊しました。その結果として、岩国錦帯橋の創建と命名に、大きな役割を果たしました。まさに岩国錦帯橋は、当時の先進国・中国に学んだ国際交流の証といえるでしょう。詳細は、次節以降に述べます。

### 僧独立と岩国錦帯橋の創建

#### - 西湖の蘇堤から着想 -

1664 年（寛文 4 年）に僧独立 69 歳は、広嘉 44 歳の病氣治療のため、長崎から岩国へ初めて招かれました。滞在中に僧独立は、所持していた『西湖遊覧志』を長崎から取り寄せて、広嘉に説明しました。『西湖遊覧志』の西湖図には、蘇堤にある六つの橋が島から島へ架け渡されています（実際には土の堤であるが、絵図では島のように見える）。独立が西湖図を説明したところ、広嘉は「島伝いにアーチをかける」基本構想を思いつきました。島（橋台）と木造アーチ橋を併用して、長い橋を造る独創的な着想です。広嘉が「流れない橋」をかけるという問題意識をもっていたので、このような着想ができました。

以上の事実は、僧独立が自筆した題辞（岩国で



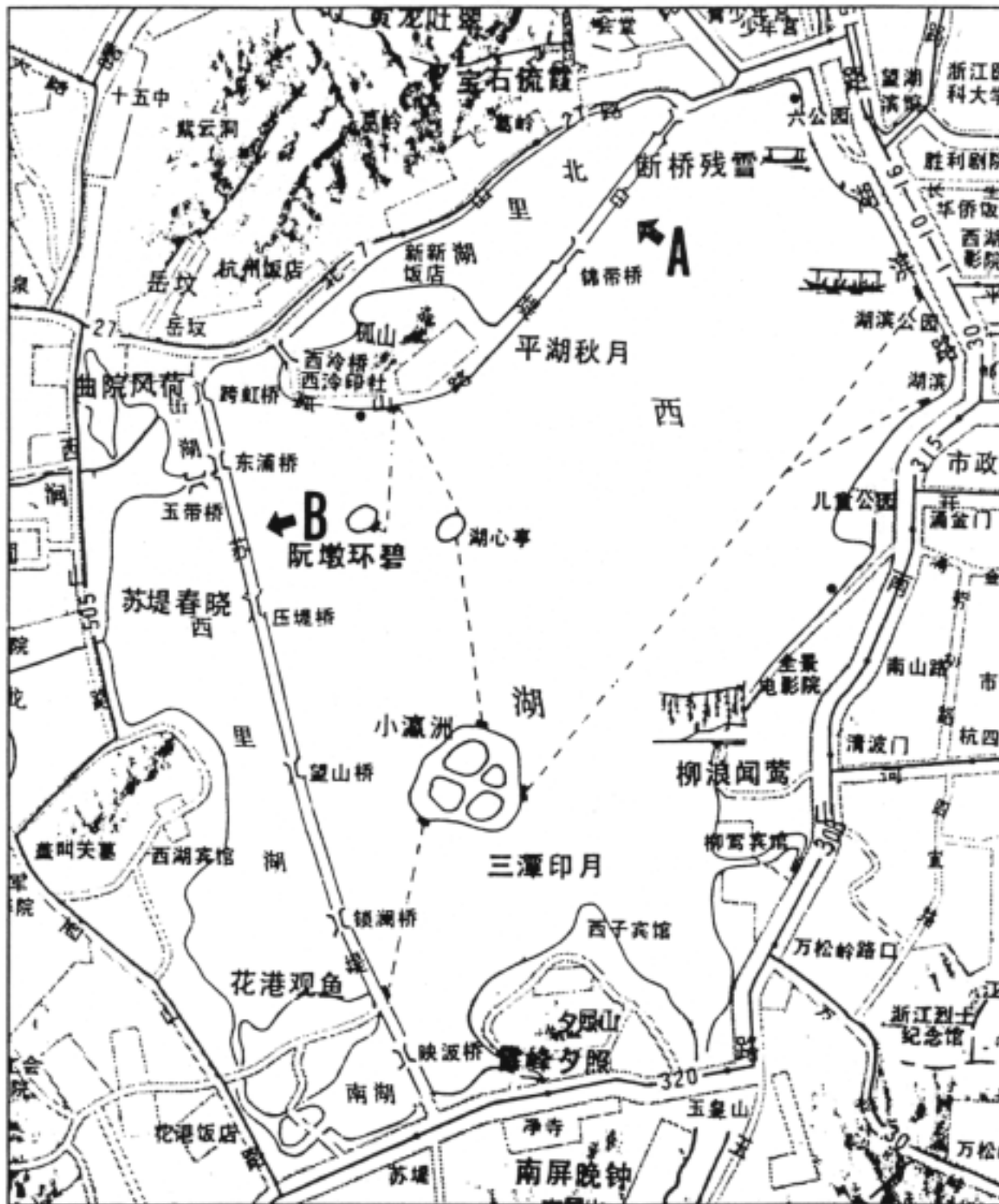


図1 西湖の地図（現在）

←A 白堤 ←B 蘇堤

中国の地図ですので、蘇が芥に、橋が桥になっています。

筆写した複製本『西湖遊覧志』(せいこゆうらんし)にもとづき、よく知られています。

基本構想を具体化する過程で、島(石垣で固めた橋台)は四つ、橋(橋体)は五つに決まりました。

た(川幅や橋体の長さによる技術的な必然)。五橋のうち両端の二つの橋は、流れが遅いので普通の柱橋にしました。中央の三つの橋は、流れが速いので橋脚のないアーチにしました—この木造の



三連続アーチは、世界で唯一（オンリーワン）です（図 2）。木造のアーチ橋を具体化（きょうりよう）するに際して、もちろん僧独立を介して中国の橋梁の知識も得たと考えられます。しかし、独創的な技術で、木造のアーチ橋を完全なものにしています。

僧独立が長崎で死去した翌年にあたる 1673 年（延宝元年）に、このような独創的な着想と技術のもとで、岩国錦帯橋は創建されました。

## 僧独立と岩国錦帯橋の命名

### - 西湖白堤の錦帯橋から -

錦帯橋の名前の由来は、いままで多くの説があり、はっきりと分かっていませんでした。以下に述べる説は、著者らが平成 6 年に発表した決定的なものです（吉岡達生・松塚展門<sup>のぶかど</sup>・石井祐光・桂芳樹）。明確な反論はなく、しだいに定説となっています。

杭州西湖<sup>せいこ</sup>の白堤<sup>はくてい</sup>には、「錦帯橋」という石橋があります。僧独立が、この名前を岩国の広嘉に伝えて、岩国の「錦帯橋」の名前になったと考えられます。

西湖白堤の錦帯橋は、1589 年（明の万暦<sup>まんれき</sup> 17 年）に命名されました—岩国錦帯橋の創建 84 年前—。僧独立は、ひところ西湖畔に住んでいました。当然に、この橋を日常的に利用していたこととなります。『西湖遊覧志』（1547 年刊）は少し古い本なので、西湖図の白堤の錦帯橋の名前は記入されていません。1664 年に僧独立が岩国で西湖図を説明するとき、白堤の錦帯橋を追加したことでしょう。このとき、錦帯橋の名前が広嘉の心の中に鮮明に残ったものと思われます。

したがって、岩国の錦帯橋は、はじめから、そのように命名されたと考えざるを得ません。1673 年の創建のときには、岩国の錦帯橋の命名は決定していたと推察します。ただし、文献的には、岩国の錦帯橋<sup>しよしゆつ</sup>の名前は、1706 年（宝永 3）に初出です。

一説に、蘇堤の全体が錦帯橋と呼ばれていたとするものがあります。しかし、根拠となる文献は、ありません。

## 『西湖遊覧志』とは

『西湖遊覧志』<sup>せいこゆうらんし</sup>（漢文）は、岩国錦帯橋を着想するヒントや命名の機縁となっています。本書そのものについては、いままで解説されていません。ここでは、要点を記したい。

この本は、現在でいえば詳細な観光ガイドブック「西湖案内」といった内容で、著名なものです。1547 年（明の嘉靖<sup>かせい</sup> 26 年）に、中国の銭塘<sup>せんとう</sup>（現在の杭州<sup>でんじよせい</sup>）の田汝成が出版しました。西湖とその周辺について、詩文をまじえて歴史的に記載しています。その巻頭に、いくつもの絵図があります。ただし、上海古籍出版社の復刻版では、この絵図は省略されています。そのため、現在の日本の専門研究者は絵図がないものと誤解しています。

本書は、岩国に二冊のこっています。僧独立が所持していた活字本（吉川史料館蔵）と、岩国で筆写した複製本（岩国徴古館蔵）です。両者の絵図の特徴的な違いは、活字本は着色がなく、複製本は青色で着色されていることです。一般に岩国の文献は、複製本の西湖図を写真で掲載しています。

## 主要参考文献

桂 芳樹・『錦帯橋再発見』出版委員会編著：錦帯橋再発見、11～14 頁、岩国西ロータリークラブ、1994 年 6 月

吉岡達生：岩国と杭州をつなぐ架け橋、岩国市医師会報、NO.136、65～67 頁、1994 年 7 月

吉岡達生：僧独立の生涯（上・下）、防長新聞、1994 年 10 月 2 日・10 月 3 日

吉岡達生：僧独立と岩国錦帯橋、中川コレクション至宝展ニュース、8 頁、2004 年 3 月

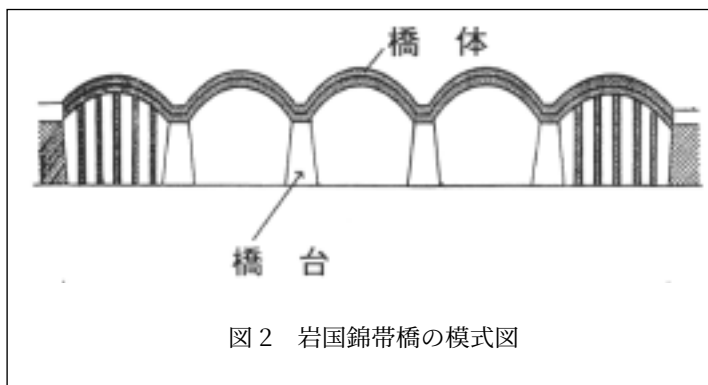


図 2 岩国錦帯橋の模式図



## あ と が き

編集委員 矢野 秀

今年の夏は暑い、昨年より 20 日も早い梅雨明け。連日真夏日と熱帯夜が続く。

甲府では 40.4 度を記録。一方、新潟などは連続の集中豪雨。暑さはまだ幸せです。

参議院選挙では、西島候補は 5 位当選で得票数は 25 万票余り、あまりほめられたものではない。今回の選挙はどうみても自民党の敗北のようだ。特に年金問題に関してはひどかった。小泉首相の、「人生いろいろ」じゃだめですね。一方、民主党は岡田党首の真面目さが受けたのでしょうか、自民党を批判するばかりではなく独自の政策を出してほしいものです。

さて、緑陰随筆が届く頃にはアテネオリンピックも始まっているでしょう。

今年も 30 編、趣味も十人十色、ぜひじっくり読んでみてください。安陵先生、超能力者ではないですか。東海地震も予知してください。

山本先生、モーツアルトを聴かせた野菜の感想またお願いします。

山口先生、かわいい子供を介護するなんてつらかったでしょうね。

目薬の木とはどんな木なのでしょう。

綿菊先生、いいお仕事されてうらやましい。

暑さ厳しき折、ご自愛ください。

